

506
273



始



Грото: Л. Савеловъ, Живописецъ

Изъ сада, Живописецъ

Грото: Л. Савеловъ, Живописецъ, съдъ: Л. Савеловъ, Живописецъ

Л. Савеловъ (Мисъ Савеловъ Живописецъ)

Летъ 17, 18, 19

СОБЮГАНУСЪ



506-273



コリオラヌス

坪内逍遙譯

11. 10. 13
内交

CORIOLANUS.

Act. IV., Sc. II.

Volumnia (Miss Genevieve Ward).

Leave this faint pulsing, and lament as I do,

In anger, Juno-like.

Photo: J. Caswall Smith, London.

CORIOLANUS.

Act. V. Sc. III.

Volumnia.

*Say, my request's unjust,
And spurn me back: but if it be not so,
Thou art not honest; and the gods will plague thee,
That thou restrain'st from me the duty which
To a mother's part belongs.—He turns away:
Down, ladies! let us shame him with our knees.
To his surname Coriolanus 'longs more pride
Than pity to our prayers. Down: an end:
This is the last:—So we will home to Rome,
And die among our neighbours.—Nay, behold us:
This boy, that cannot tell what he would have,
But kneels, and holds up hands, for fellowship,
Does reason our petition with more strength
Than thou hast to deny't.—Come, let us go.*

Printed by Gavin Hamilton. Engraved by James Caldwell.



CORIOLANUS.

Act. V. Sc. III.

Voluntaria.

Then thou hast to deny't.—Come, let us go.
Does reason our petition with more strength
But kneels, and holds up hands, for fellowship,
This boy, that cannot tell what he would have,
And die among our neighbours.—Nay, behold us:
This is the last:—So we will home to Rome,
Then pity to our prayers. Down: an end:
To his surname Coriolanus' looks more pride
Down, ladies! let us shame him with our knees.
To a mother's part belongs.—He turns away:
That thou restrain'st from me the duty which
Thou art not honest; and the gods will plague thee,
And spare me back: but if it be not so,
Say, my request's unjust.

Printed by Gavin Hamilton. Engraved by James Colwell.

緒言

『コリオレーナスの悲劇』と題名せられたる脚本が二つ折本の沙翁全集中に收められて、はじめて世に出でしは一六二三年の事なり。其以前には、此作に關して、一二の仄かなる暗示以外には、何等文獻の徴すべきなし。随つて其創作年月は今に及びても尙不明なり。然れども諸研究家が其所謂內的證左を辿りて考査したる所によれば、一六

○八年乃至十年間の作にして、所謂後期悲劇中に屬せしむべきものなるが如し。すなはち、名は同じく羅馬史劇なれども、『ジュリヤス・シーザー』の如き主義又は思想を生命とする人物を主としたるらしく思はるゝ、作の系統には屬せずして、『アントニーとクレオパトラ』の如き強大なる慾情、猛烈なる煩惱に自己を忘るゝよりして起る性格悲劇の部に屬せりと見ゆ。更に之を其著しく倫理的となれりと見ゆる作意、引締りたる脚色、放膽的なる詞致、散文と韻語との配合鹽梅、各行の語尾の特質、弄語の不存等に就いて見るも、其最後期の悲劇たる證據少からず。

此作の材源は例のサー・トマス・ノオスの譯に係るブルタークの『英雄傳』たること他の羅馬史劇の場合にひとし。沙翁は、此作に於ては、特に忠實にブルタークが傳したるまゝのケイヤス・マーシヤス又の名コリオレーナスの性格及び業績並びに其周圍の事情、人物を寫す事に力めたるが如し。事件だけは、演劇上の都合によりて、或は其順序を前後し若しくは一處に併合したるもあれど、其推移は、細大共、殆ど其儘にして、メニ、ヤス・アグリッパの語る譬喩談の如きさへも原話に見えたり。各人物の名もまた然り。(但しコリオレーナスが敵軍の將となりて羅馬の市門に迫れる時、之を説得す

る爲に赴く最後の男性使者をメニ、ヤスとなせるは沙翁の脚色上の都合なり。主なる人物の長白ながせりよの如きも、大概は、原話の散文を多少の潤色を施して、律語化せるに外ならず。中には逐語的に移植したるに近きものもあり。蓋し、原話其物も、今日の史眼よりすれば、單に一篇の英雄傳説と見做さるべきものにして、頗る劇詩趣味に豊かなる上に、當時洽く人口に膾炙したれば、劇場詩人としての沙翁の詩眼は寧ろ之に蛇足を加へざるを以て其目的に有利なりとせしならん歟。

傳説によれば、コリオレーナス背叛の事蹟は紀元前四八八年頃の事とせらる。是れ古羅馬の王政滅びて、共和政體起り、貴族平民の軋轢漸く激甚ならんとせし時なり。其頃貴族は主として土地を占有して富み榮えしが、平民は概して之を借りて耕作し、辛うじて其生計を營みしゆゑに、戦亂又は凶荒には、其困窮甚しく、止むなく貴族より借財せり。かくて其負債ますますかさみて、之を償却し得ざる時は、眷族を擧げて債主の奴隸となる慣例なりしかば、年を経て貧富の懸隔いよゝゝ甚しきを加へたり。こゝに於て平民は絶望の餘り、紀元前四百九十四年、遂に全族

相率ゐて羅馬市を去り、ニヶ所の丘陵に據りて、戦備を整へ、貴族黨と雌雄を決せんとせり。然れども事の未だ發せざるに先だち、元老メニ、ヤス・アグリッパら其間に斡旋して調停に力め、平民の要求に應じて彼等の選出に係る保民官トリビと稱する二人の代議士を元老院に列席せしめて、彼等の權利及び自由を擁護するの道を開き、よりて内亂を未發に防ぎ、彼等を市に歸らしめたり。然るに、此内訌の後幾ばくもなく、隣國アルサイとの戦争などありて、羅馬領内の農業は殆ど廢止同様の姿となり、随つて穀類は實らず、飢饉の厄旦夕に通りたり。貴族は流石に困惑にも及ば

ざりしが、貧民は悉く飢餓に瀕し、貴族を怨むと甚しく、又も一大紛擾を醸さんとせり。此際或は此急を濟ふために、不逞の平民らは之を悉く植民地へ移住せしむべしと説く者もあれば、穀類を廣く外國より購入して其市價を引下ぐると同時に之を貧民に施與すべしと説く者もありて、元老間の意見まち／＼なりき。中にもケイヤス・マールシヤスといふは羅馬名門の出にして、嘗てアルサイ國征討の際に大勇を顯し、殆ど只一人の力にてコライオライなる敵城を陥れ、よりてコリオレーナスと異名されし程の豪傑なるが、年來平民を嫌ひ賤むを以て名ありしかば、最も猛烈

に穀類施與に反對せり。プルタークは彼れの性格を評して曰く

彼れは其雄邁なる氣魄と其不撓の忍耐とによりて多くの偉勳を立てたりきと雖も、惜しいかな、極めて憤激し易く、苟も其周圍の人々の意に従ひ若しくは迎ふるを屑しとせざる辭ありしかば、何事をも他と妥協して行ふこと能はざりき。されば彼れが常に克く快樂の盡感に堪へ、勤勞の艱苦に堪へ、又財利の誘引に堪へ、節慾、忍耐、公正の諸徳を兼ね備へたるを推賞する者と雖も、市民として又政治家としては、彼れを峻辣粗暴と譏り、其倨傲尊大にして威壓的なるを憎惡せり。按ふに、かゝる缺點は、蒸陶と學問と文藝とによりて救ふことを得べきものなり。此三者は其人を仁化し又文化して其情性をして理性

の規制する所に従はしめ、甚しき狂暴に流るゝを避けしむ。云々。

然れどもコリオレーナスは夙に其父を失ひ、武功を無上の名譽とせる其母、チラムニヤの手一つによりて鞠育せられしかば、幼少より武藝を修むるに熱衷し、體力は絶倫に、膂力は拔群なりき。弱冠にして従軍し、時の執政官の面前にて一偉勳を立てしを初めとして著しき戦功數度に及び、勇名内外に轟けり。就中、ヂルサイ征討中の功績は上下共に歎稱して措かざる所なりしかば、恰も此際、コンソル(執政官)の候補に推され、平民將た甘んじて彼れを選擧せんとなしつゝ、ありしに、穀類問題に對する彼れの態度と其傲

慢とが因となりて、彼れは平民の激昂を招き、遂に羅馬市より逐はるゝに至りたり。ブルタークは曰く

從來彼れは其情を制するに力めざりき。むしろ忿怒するを一種の豪傑的資格と思へり。大政治家、大經世家の美德たる堅實と平靜とは其學び得ざりし所なり。彼れは衆庶の上に立ちて政を宰る者は、先づ第一にプレトリーの所謂孤棲者の伴侶たる我意を慎み、驕慢を避け、通例は卑劣として嘲けらるゝ虐待に忍従するの能力を養成せざるべからざる所以を知らざりき。

要するに、彼れはわが戰國武士のそれの如き勇敢、義烈、剛毅、正廉、直情、徑行等の幾多の美所を具へて、國家の爲には其命を輕んずると鴻毛の如くなりしも、人を人として之

を平等に好遇するが如きに至りては其夢にだに思念せざる所なりき。若しニイチエに従ひて、基督教樹立後の倫理を奴隸道德となさば、コリオレーナスのそれの如きは、異教全盛期の超人道德を代表する者といふを得べし。コリオレーナスは其平素塵芥の如くに輕蔑せりし平民の爲に市を逐はれたれども、敢て抗議せんともせず、黙々として國外に去れり。是れ畢竟其忿怒の白熱化せるが爲なりき。彼れは賤民をして此暴横を敢てせしめし罪は寧ろ貴族の意氣地なきに在りとなして、之を憎み、祖國を擧つて焦土となし、市民を屠り盡さずんば止まじと誓へり。

彼れは此復讐の念に燃えて、單身敵國に入り、嘗ては不俱戴天の仇敵たりしタラス・オーフィディヤスをアンチャムの邸に訪うて、其志を語り、遂に之と結托して、ブルサイの元老らを動かかし、新たに大軍を徵募せしめて、みづから之をひきゐ、オーフィディヤスと共に羅馬市に進軍せり。其勢ひ真に破竹の如く、連戦して連捷し、其道に當る羅馬領は相繼いで陥落せり。敗報の羅馬市に達するや、貴族も平民も色を失ひ、殆ど策の出づる所を知らざりしが、遂にコリオレーナスの親族故舊中より若干の人選をなし、之を使節として敵の陣營に赴かしめ、和議をコリオレーナスに懇願せしめき。然

るにコリオレーナスは儼として彼等の乞ひを斥けて曰く、「卿等何の顔ありてか予に慈惠を乞はんとするぞ？速かに歸つて羅馬人らに告げよ、和を欲せば、先づ此年頃ブルサイより奪ひたる諸領を返還せよ。また爾後はブルサイ人を羅馬市民と同遇すべし。また羅馬市を予の手に引渡せ。此三ヶ條を諾するに非ざる以上、斷じて和を納れじ」と。使節歸りて斯くと報すれば、元老院は更に老神官の一群をコリオレーナスの許に遣して、右の條件の輕減を哀願せしめたり。されど彼れは頑として應ぜず、直ちに之を追ひ返し、新たに令を全軍に傳へて、羅馬市總攻撃の準備に及

べり。時しも斥候走り來りて、三たび市の使節の來れる由を報ず。コリオレーナス大いに怪みて俟つ程もなく、其母グラムニヤ、其妻グージリヤ及び其幼兒、並びに相知れる羅馬貴族の妻、娘の一群、喪服を被り、頭を垂れ、愁然として進み來り、母先づ口を開きて羅馬市民の爲に哀を乞ふと切なり。「嗚呼此世の婦女の中にて最も不幸なるは我等なるぞや。夫れ祈禱は萬の艱難を慰むる筈のものなるに、今や其祈禱すらも我等に取りては困苦のもとゐたるのみ。何となれば、われら神に向つて羅馬市の勝利を禱らんか、是れ汝を呪ふなり。汝の勝利を禱らんか、是れわが市の亡滅

を祈願するにひとし。嗚呼、われは其祖國を失ふか、其子を失ふか、其何れかを選ばざるべからざる也。いかでわれさるあさましきを見るに忍びんや！ケイヤスよ、逆も此哀願を許す能はずといへ、われは立地たちどころに自殺して市門に横はらん。汝は其兵を進むる前に、わが屍を馬蹄に掛けて、蹂躪して後に進み入れよ」と。傲岸不屈のコリオレーナスも、母の此言を聽きて意氣挫け、終に苦しげに叫んで曰く「あゝ、母よ、わが事休せり。御身は勝てり。御身は斯様にして羅馬を救ひ得たり、然れども其子を亡ぼし了んぬ」と。かくて彼れは使女ら一同をして羅馬市民に復命せしめ

て和議を講じ、直ちに全軍を收めてブルサイに退却しぬ。之より先き、タラス・オーフィディヤスは漸くコリオレーナスを嫉視しつゝありしが、此不時の斑軍を奇貨として、其同志と共に、彼れを誣告するに力めし結果、世論大いに沸騰せり。コリオレーナスは辯疏の爲、市に出でて、元老及び公衆に對し、大いに陳ずる所あらんとせしが、オーフィディヤスらは彼れを以て多く辯ぜしむるとの不利なるを思ひて、わざと暴言を放ちて彼れを怒らすると同時に、無智なる公衆を煽動して、囂々たる大紛擾の間に、急に襲うて一舉に彼れを虐殺せりと云ふ。

以上はプルタークに見えたる「コリオレーナス傳」の梗概なるが、之を以て斯劇の筋書と見るも不可なし。

ダウデンの嘗ていへる如く、沙翁が悲劇中に、特に巨人を主人公としたるかと思へらるゝもの若干あり。例へば、マクベスの如き、オセローの如き、アントニーの如き、もしくはリヤ王の如き、いづれも肉體的にか、精神的にか、或は其身分上にか、何等かの點に於て、尋常人以上の資質ある者と見做し得べく、而してそこに特に一種の悲劇的意義の存するを覺ゆ。試に『リヤ王』を翻案して其主人公を一個の老富

豪たるに過ぎざらしめよ。一富豪の一朝にして乞食非人と零落するが如きは、常なき人生に有りがちの事にし、必ずしも人心を震撼する大悲劇的テーマたるに足らざるべし。蓋し『リヤ王』の眼目は主人公が千乗の尊貴者たるに其性の甚しく驕傲なるとに存するに似たり。之にひとしく、マクベス、オセロー、アントニーらもまた其自ら居ることの甚だ高き點と其情慾性の遙に常人を超越して猛烈なる點とに、其悲劇的運命の秘機を藏すと見て可なる如し。リチャード三世の如き並びに本篇の主人公の如き將た同じ。

沙翁は動もすれば其筋を二重、三重にする癖あるゆゑ、恰好の悲劇的性格を中心人物に押立てながら、とかく作意をして散漫ならしめ、性格悲劇としての統一を缺く憾みあるを常とせるに、ひとり此『コリオレーナス』に在りては、不思議にも異例を示せり。初中終を貫いてコリオレーナスを中心人物として活動せしめ、彼れの自我と其周囲の衆自我との衝突を主題となし、そこに此悲劇の要因を置き、一のエピソードをも、一の戀愛情味をも粧點せずして、ほゞ近代悲劇に見るが如き作意の統一を保ち得たるは珍とすべし。加ふるに、其主人公が今の所謂ブルジョア及びアーティスト

ラットを代表し、其周囲の多數者が主として今の所謂第四階級を代表するも奇ならずや？ 又、近世の群衆心理學者らの所謂「多頭、無定見の怪物」^{モンスタール}としての群俗に對する比喩的評語が、早くも三百餘年前に、コリオレーナスの舌頭によりて道破せられたるも面白し。沙翁は此作に於て、平民の口を藉りては貴族政治の諸弊を指摘し、コリオレーナスの語に托しては、平民の愚妄を罵倒せり。それらの多くは、さながらに移して現時代のブルジョアを評し、プロレタリアを評したるものと見ることを得。嘗て英のハズリットが本篇を評して「政治的常套話柄の倉庫」といひ、此一作を研究せ

ば、彼の有名なるパークの『佛國革命亂の回想記』をも、ペインの『人權論』をも、佛國大革命乃至英國のそれ以來の上下兩院の諸討議録をもすべて讀まずして事足らんと言ひしも、強ち文飾とのみは見るべからず。然るは、彼れの言へる如く、貴族主義と平民主義、少數者の特權と多數者の權利、自由と奴隸、權力と其濫用、平和と戦争等の是非曲直に關する要旨は、こゝに詩人的靈活と哲學者的俊敏とを以て頗る巧みに取扱はれればなり。近代に至りて、論者ら或は沙翁の政治觀を其作中に就いて窺ひ知らんと欲し、主として此作及び『ジュリヤス・シーザー』もしくは『ヘンリー

六世』などに散見する群衆、暴徒、一揆の描寫振及び彼等に對して下されたる評語等を依據として作者を保守主義者と解し、貴族政治を庇護し最厲する者と做すを例とす。バーナード・ジョウ其他社會主義者らの見る所は概ね然り。蓋し沙翁にさる傾向あることは否むべからず。然れどもそは必ずしも彼れの本來が保守主義もしくは貴族主義を偏愛しをりしが爲にはあらずして、むしろ一半は當時の特殊なる時代事象の然らしめし所なるべく、又一半は、ハズリットのいへる如く、作劇上の都合に原^{もとづ}けるものならん。ハズリットは「夫れ民衆の利害問題は詩題としては

甚だ妙ならず、何となれば、そは論議、解説の辭を容るゝには適すれども、端的直截なる映^{イミ}象^{シヨ}を心前に現示するには適せざればなり」と前提して、凡そ詩は綿密なる推理分析を司る理解力よりも奔放なる誇張壟斷を敢てする想像に重きを置くもの也、随つて不平等、不平均は其曾て意とせざる所、云々といひ、かるが故に理解力は共和政治向きなれど、想像力は貴族政治向きなりと評し、且つ曰く

詩の主義とする所は甚しき反平等主義なり。詩は效果^{エフエクト}を是れ目的とし、對照^{コントラスト}を是れ性命とす。……苦痛をも罪惡をも、常に之を尋常の標準以上に求めて、毎に目覺しき面目を呈せんことに力む。すなはち

其頭上には小塔を聳えしめて、冠冕を載き、其前額部は鮮血に鍍金せられて金色に輝けり。其進むや、前には歓迎の騒音あり、後へには潰敗の血涙あり。帝王、僧侶、貴族らは其供奉員にして、暴君、奴隸は其死刑執行吏、而して大虐殺は其嫡女たり！蓋し詩は正統の君權主義者なり、種族よりも個者を、多數者よりも一人を、正義よりも強力を尊崇す。云々。

彼れは斯く論じ來りて、羊群又は驢群を驅る猛獅の雄姿は憫むべき前二者の見すばらしき姿よりも明かに詩的にして兼ねて人の瞻仰を呼ぶに適すと論じ、沙翁がコロオレーナスに黨して此作を成せるが如く、見ゆるは、畢竟、此詩的要求にもとづくに外ならじと辯じたり。

創作當時の此作の上演に關しては、何等の確實なる記録もあらず。十八世紀に入りては、實演出として特に準備せられたる一種の脚本によりて、屢復演せらるゝに至り、其上演史に幾多の名優の名を留めたり。最も早くコリオレーナスの役に當り、藝の名譽を博せしは十八世紀末のジョン・フィリップ・ケンブルなり。熱に乏しといふ一缺點を除外すれば、又、舊式の演出法としては、先づ、すべての點に於て彼れの此役は成功なりき。例の天才俳優エドマンド・キーンの如きも、十九世紀の初めに、此役を試みたりしが、其稟賦先づ其役に適せざりしかば、失敗に終りたりといふ。以

上二人の後は、一八三一年のマクリデー、一八四八年以後のホエルブス、一九〇一年のヘンリー・アーギングなどを最も著名なるものとすれど、此中比較的 success せしはホエルブスにして、アーギングのその如きは其不當り役の一つなりき。但しアーギング以前は、殆ど常に翻案ともいひつべき程にはしいまゝに抜き差しせるいかゞはしき適用臺本に據りてのみ上演したりしに、彼れに至りては、忠實に原作を研究せし結果、之を三幕、三時間に緊縮し、古羅馬の故實及び風俗を最も周到に考證し、且つ寫實的舞臺裝置に前例なき意匠を凝らして時人の目を驚かせりといふ。

米國の劇壇にても、十八世紀末以來、コリオレーナスの上演は屢有りしが、最も好評なりしは一八三一年のエドキン・フォレストのそれなるべし。伊國の名優サルギニの如きも、米國に來りて此役を演じ、其當り役たりしオセロ又はリヤに次ぐ讚評を得たりき。ドラムニヤの役は、十八世紀にては、例のシッドンス夫人の最も success せし役の一つとして名高し。其頃の評を信ずるを得ば、空前はもとより、絶後の稱をも博し得べきものなりしが如し。オースチン・ブレチンは其『コリオレーナス』の舞臺史中に、彼女と同時代の俳優

ングの目撃評を抄して其然る所以の裏書をなせるが、ウイリヤム・ウインターの『舞臺上のシェークスピア』にも、アーギングが『沙翁全集』中の舞臺史にも、同様の讚評を録したり。アーギングのコレオレーナスに此役を附き合ひしエレン・テリーの如きは、其人らしからずとして、不評なりき。

大正十一年八月下旬

譯者

登場人名

ケイヤス・マーシヤス、後にケイヤス・マーシヤス・コレオレーナス。

タイタス・ラーシヤス
 コミニヤス
 デルサイ人征討の將師。

メニ、ヤス・アグリッパ、コレオレーナスの親友。

シ、ニヤス・エルータス
 ジューニヤス・ブルータス
 兩保民官。

幼児マーシヤス、 コリオレーナスの男。

羅馬の傳令使。

タラス・オーフィディヤス、 デルサイの勇將。

副將(オーフィディヤスの)。

共謀者若干名、 オーフィディヤスの與黨。

アンチャムの市民。

デルサイの二衛卒。

ブラムニヤ、 コリオレーナスの母。

ヴージリヤ、 コリオレーナスの妻。

ヴリリヤ、 ヴージリヤの友。

侍女、 ヴージリヤに仕へる者。

羅馬の元老官ら、デルサイの元老官ら、貴族ら、警保官ら、警吏ら、兵士、市民大勢、使者役ら、オーフィディヤスの家僕ら、其他の侍者役ら。

場所

羅馬及び其附近。 コライオリイ及び其附近。 并にアンチャム。(又はアンシヤム)。

*	*
*	*
*	*
*	*
*	*
*	*
*	*

コリオレーナス

第一幕

第一場 羅馬街上

暴動を起した市民らの一群が、棒ちざりだの、先太りの棍棒だの、其他の得物を携へて、がやぐやぐいつて出る。

一市 いよ／＼やツつける前に、諸君にいつてお



第一幕 第一場

くことがある。

皆々 聞かう〜。

一市 諸君は飢え死するくらゐなら、戦つて死なうといふ決心でせうね？

皆 さうだ〜。

一市 ところで、吾々民衆の第一の仇敵はケイヤス・マーシヤスでせう。

皆 さうだ〜。

一市 奴を殺しツちまつて、吾々の望み通りの價格で殺物を手に入れる。さう

いふ決議でせう。

皆 もう何もいふにや及ばん。やツつけツちまはう。さ、行かう〜。

二市 良民諸君、ちよいともう一言。

一市 おい〜、吾々は貧民諸君だよ。良民てのは貴族連ばかりだ。奴らの手に有り餘つてゐる物だけで、立派に此方らは助かるんだ。其餘分だけを徴

の來ん中にくれる氣がありやア、さすがに人間扱ひにしてゐるんだといへるが、奴らにやそれだけの人情もないんだ。吾々が食ふや食はずの慘なまをしてゐるのを見ると、それだけ自分らの裕福が分るやうに思つて得意がつてゐるやアがる。骨ばかりの、熊手よろしくになツちまふ前に、奴らを乾草又で突き殺してくれようぜ。こりやア麵麩に飢えてするんだ、血に渴してするんぢやないてことは神様が御承知だ。

二市 君は専らケイヤス・マーシヤスを敵と目指すんですか？

一市 第一は彼奴です。彼奴は吾々平民に取つての狂犬だ。

二市 だが、あの仁は、國家に對して随分功勞のあつた男ですぜ。

一市 なるほど。だから、僕だつて、強ちわるくいひたくもないんだがね、奴が傲慢な行動をして、自分で其功勞を空にしてしまはなけりやア。

二市 まア〜、さう口ぎたなく言ひたまふな。

一市 いゝえね、奴が名譽の功勞をしたつてのは、つまり、威張りたいが爲にしたんだ。氣の好い連中は國家の爲にしたんだなんて賞めてるんだが、其實、奴は、半分は阿母を嬉しがらせるため、半分は威張りたいが爲にしたんだ。つまり、傲慢と勇敢とを等分の男だ。

二市 止むを得ない生れ附きなんだよ。それを君は惡徳視するんだ。いかに何でも、あの仁を貪婪だとはいへまい。

一市 それはいへないにしても、奴には口がくたびれる程の疵があらアね。(内にて聞の聲が聞える。) 何だあの聲は？ あつちの方でも始めたんだ。こゝでぐづぐづ喋舌つてゐべきぢやアない。さ、さ、殿堂へ、

皆 さ、行かう。

一市 まつたり。だれか來た。

老奉行 メニ、ヤス・アグリッパが出る。

二市 メニ、ヤス・アグリッパさんだ。始終われゝの事を思つてくれる人だ。

一市 ありやたしかに正しい人だ。みんながあの人のやうでありやアいゝのだがなア。

メニ (近附いて) 國民諸君、諸君は何をしようといふのだ？ 棒ちぎりなんぞを持つて、何處へ往かうといふんだ？ どうか理由を話して下さい。

二市 われゝの目的は、元老議官たちが、とうに知つてゐなさる筈です。

一市 われゝがどういふことをしようとしてゐるかは、二週間も前に分つてゐた筈です。それをわれゝは今實行しようとしてゐるのです。貧に迫つてる請願者の息は強いかいふが、腕ツ節も強いかいふことが今に解るだらう。だつて諸君、いやさ、先生たち、君たちはそんなことをして自滅を招かうとするのか？

二市 招きやうがありませんや、もうとうに半滅亡が來ツちまつてるんだから。

メニ

まア、聞きなさい、貴族たちは十分君たちの事を心配して、救済の策を講じてゐる。食糧の不足は、不作の爲に難儀をするのは、それは政府の故ぢやアない、怨むなら天に向つて棒三昧をするが、君たちが反抗したからつて、政府は君たちの反抗力の幾千倍にも當る鐵鎖たつて難なく引裂つてしまふ政策を取るだらう。飢饉は神々の爲さる所だ、貴族の所爲ぢやアない。だから、棒三昧をするよりも跪いて祈るのが肝心だ。あ、君たちは不幸のために氣が顛倒して、ますます不幸を募らせるやうなことをしようとしてゐるんだ！ 慈父のやうに君たちの事を心配してゐる國家の當事者を仇敵のやうに罵るのは誣罔といふものだ。

ニ市

われ／＼の事を心配してゐるツて？ いかにも！ 成程！ つひぞまだ御心配なんかにあづかつたことはないや。われ／＼には飢え死をさせさうにしておきながら、めい／＼の倉は穀物で一ぱいだ。高利條例なんか

メニ

をこせへて高利貸の便宜を圖る、富豪の暴横を制するために設けられてあつた良い法律は毎日のやうに廢止する、貧乏人を束縛するための苛酷な條文は毎日のやうに附け加へられる。われ／＼は、戦争のために殺されなけりや、奴らのために殺されるんだ。奴らの御深切は、たかゞ、その位のものんだ。

メニ

君たちは非常に皮肉で、口がわるいといはう歟、でなけりや馬鹿な人たちだ。わたしが佳い話をしよう。或はもう聞き古してゐなされるかも知れんが、ちやうど役に立つから、敢てもう一度分古びを附けよう。

ニ市

聞きませうよ。けれども、侮辱されてゐるわれ／＼を、昔話なんかでごちやまかすことは出来やしませんぞ。だが、話したけりやお話しなさい。

メニ

ある時、此肉體の各部が腹部に對して謀反を起したことがあつた。其理由は斯うだ。腹部は、始終、まるで何にもしないで、深溝か何ぞのやうに、

體の中央に不動としてゐて、旨い物を溜込んでゐる、他の機關は、見たり、聞いたり、工夫したり、指圖したり、歩いたり、感じたり、互ひに助けあつたり、食慾の爲および全肉體共同の嗜好の爲に、何くれと勤勞してゐるのに、腹部ばかりは、曾て他と協力したことがないのは不埒だと詰責した。と、腹が答へて曰く……

一市

で、何と答へましたね腹が？

メニ

それをこれからお話する。……一種の笑ひと共に、といつても、肺臓から出る笑ひぢやアなかつたが、……既に物をいふくらゐだから、笑ひもするわけだらう……腹が其不平黨に向つて嘲弄氣味で、まア、斯ういつたね。彼等が腹をそねむのは、ちやうど君たちが元老を、君たちと同じやうに働かないからといつて、憎むやうなものさ。

二市

で、腹は何と答へましたね？ えッ！ 國王同然の頭や、保安係りの目や、

評議官の心臓や、武官の腕や、軍馬の脚や、喇叭手の舌、其外、此われ／＼の體に附屬してゐるいろんな器械や補助機關が、若しか不平を起した日にやア……

メニ

え、さうしたらどうだといふのだ？……(傍白) 奴め、口出しをしをる！……

え、さうしたらどうだ？ え、さうしたらどうだ？

二市

強慾張の腹は肉體の掃き溜でさ。 奴に壓制された場合に……

メニ

さうしたら、どうだといふのだ？

二市

それらの、體のあらゆる機關が、若しも悉く苦情を言ひだしたとしたり、腹めが何と辯解するでせうか？ 辯解する言葉があるでせうか？

メニ

それを、その腹の辯解といふのを話さうといふのだ、少々忍耐してくれ、ば、…… 君たちは兎角氣短かだが。

二市

だつて、中々始まらないぢやありませんか？

メニ いや、まア、お聴きなさい。腹は、極真面目で、思慮が深いから、其弾劾者連中のやうに輕卒でないから、斯う答へた。「組合員諸君よ、なるほど、わたしは食物を最先に受取る、けれども其食物は組合員全體の生活を支へる爲の料だ。わたしは全肉體の庫でもあり、店でもあるから、それを受取るのが當然だ。君たちは忘れたのか知らんが、わたしはいつもそれを君たちの血の河を通して、それへ輸送してゐる。朝廷たる心臓へも、腦髓の本部へも、人體のあらゆる路筋へ、局部へ、一等強い筋肉から最小の脈管に至るまでが、悉くわたしから受取る物によつて、それ相當な、自然の働きを成し得るだけの活力を得るのだ。たとひそれがすぐには分らないまでも、ねえ、諸君よ」……と腹がいふんだ。いゝかね。

二市 よろしい。え、それで？

メニ 「たとひすぐには分らないまでも、常に諸君の各自へ食餌の最上等な部分

を返納し、わたしは只其糠ばかりを貰つてゐるのだ、といふことを屹度證明して見せる」といつたらどうだ？

二市 さういつたんですか？ それをわれ々の場合へ適用する？

メニ 羅馬の元老は其善良な腹で、君たちは其暴動を起した四肢五體なのだ。なぜなら、元老らは、一體、何を議し、何を考へてゐるかを調べて見なさい。一般の幸福といふ點を、とくと公平に考へて見なさい。君たちの享受する公共の利益は、一つとして彼等の手を通じてゐないものはない、決して君たち自身の手からは來てゐない。(二の市民に向つて) 何とさうぢやないか、君、此群衆中の足の指先生？

二市 足の指だつて僕を！ なせ足の指です？

メニ なぜなら、君は此至極賢明な叛軍中の最下等の、最劣等の、最貧弱な一人であつて、とかく最先に出しやばるからさ。真先駆ける柄でもない瘦鹿の

癖に、何かうまいことに有りつかうと思つて、先登に立つからさ。随分油
断なく棒ちぎりの準備をなさい。これから羅馬と鼠の軍が始まる。どち
らか、酷い目に逢ふ。

ケイヤス・マーシヤス 出る。

御機嫌よう、マーシヤスさん！

マーシ

ありがたう。…おい、どうしたといふのだ、不平黨めら？ 餘計な苦情を
持出すのは、われとわが疥癬を掻きむしつて、尙とそれを穢らしくするや
うなものだぞ。

一市
相變らず御深切な御挨拶ですね。

マーシ
汝なんか媚びて、深切な挨拶をするやうな奴は、憎むにも足らん卑劣な
人間だ。何が欲しいのだ、野良犬ども？ 戦争も嫌ひ、平和も嫌ひ、戦争に
は慄え上り、平和には慥れ返る！ 汝らを信頼してゐると、獅子になれと

思ふ場合に、汝らは兎になる、狐にと思ふ場合に、鴛鳥になる。霰を日向
に晒し、火になつた石炭を氷の上に置くよりも當にならんのは汝らだ。汝
らの長所は、犯罪をして罰せられるやうな奴を庇つて、法律を呪ふぐらゐ
が關の山だ。偉大と稱するに足る者は汝らに憎まれる。汝らの愛憎は病
人の食慾同様で、うぬが害になるやうな物を好くのだ。汝らの後援を當
にするのは鉛の鱗で泳ぐのだ、葭で櫂を研るのだ。畜生！ かりにも汝ら
を信頼することが出来るか！ 毎分時に氣の變る汝らは、今憎んでゐるか
と思ふと、褒め立てる、冠のやうにしてゐるかと思ふと、くそ味噌に言ふ。
一體、どうしたのだ汝らは、市内のあつちこつちで元老攻撃をするのは？
神々に成代つて、治安を維持してくれる人達だぞ。彼等がゐなかつたら、
汝らは互ひに喰ひ合ひを始めるだらう。…（メニ、ヤスに）彼等は何を要求
するんです？

メニ

彼等の望む價格で穀類を下附して貰ひたい、市には穀類が有り餘つてゐる筈だといふのです。

マーシ

え！ 筈だといひますつて、奴等が！ 圍爐裏ツ端に坐つてゐながら、見事、議事堂で進行してゐることを知つたか振をして、だれが出世するらしいの、だれが榮えるの、だれが衰へるの、やれ、何黨がいつの、何黨がわるいのと、勝手な御託を並べて、臆測の結婚談を觸れ散らしたり、氣に入つた黨派は褒めちぎり、氣に入らん黨派は破れ靴で踏み附けるのが奴等の癖です。穀類が有り餘ると奴らが言ひますつて！ 貴族連が全然慈悲心を抛擲して、劍を用ひることを許してくれりやア、こいつらの千人や二千人は一擧叩き殺して、投槍の達く限り、死人の山を築き上げて見せるのに。いや、もう殆ど降参に及んでゐます。夥しく譯の分らん手合ではあります。が、また非常に臆病でもありませんからね。だが、あちらの連中はどんなこ

メニ

とをいつてますね？

マーシ

奴らはもう解散しました。畜生めら！ 奴らはひもじい／＼といやアがつて、いろんな諺を呻きをりました。飢は石壁をも破るだの、犬も食はずにやをられぬだの、食餌は口腹の爲のものだの、神は富者の爲にのみ穀を送らすだのと、ぼろッ屑を並べ立て、苦情をいつたのを、一々答辯もし、請願通りにも……それが貴族階級の膽を破り、専制権力に色を失はせるやうな奇怪な請願であるにも拘らず……請願通りにしてもやつたので、奴らはわれ劣らじと歡び叫んで、めい／＼に、帽子を高く、月の角にひツかゝらせるかと思ふ程に、投げ上げましたよ。

メニ

どういふことを許したんです？

マーシ

平民階級の輿論を保護するための役員五名を奴らの手で選任させたので。それはジュニヤス・ブルータスにシ、ニヤス・エルータス、それから

だれだっけか……畜生！ 忘れッちまつた。あれが我輩なら、此羅馬が暴民らのために叩き毀されッちまはん以上、許すこッちやアないのだ。見たまへ、今に権力家らを壓倒して、更に大きな叛逆運動を起す名義や口實を醸し出すに相違ないから。

メニ そりや奇怪だ。

マーシ (群衆に) さ、さ、歸れ、ぼろッ屑ども！

此時、使者役急ぎ足で出る。

使 ケイヤス・マーシヤスさんは何處においで、す？

マーシ こゝにゐる。何か起つたのか？

使 はい、ブルサイ人が兵を起したさうでございます。

マーシ そいつは有りがたい。それで先づ、あの有り餘る役に立たずどもの捌け道が附くといふものだ……(一方を見て) お、元老連が見えた！

元老官 コミニヤス、同、タイタス・フリシヤス、其他の元老官ら出る。つづいて新たに保民官になつたジュニヤス・ブルータスとシ、ニヤス・ゾルータスが出る。

一元老 マーシヤスさん、あなたが此間お話しになつたことは事實でした。ブルサイ人が兵を起しました。

マーシ ブルサイ人はタラス・オーフィヤスといふ名將を有してゐますから、中骨が折れますぞ。嫉妬は罪惡だが、あの男に對しては、自分も多少其罪を犯してゐる。自分が此自分でなかつたなら、只あの男たらんことをのみ願ふでせう。

コミ 會戦をしたことがありますか？

マーシ それは世界の一半と一半とが戦つたのでした。若しあの男がわたし方であつたなら、わたしは奴と戦ひたい爲はッかりに謀反するでせう。奴は

獅子です、あゝいふ奴を討取るのをわたしは誇りとするのです。

一元老 ちや、マーシヤスさん、今度の役に、コミニヤスさんについて出陣なさい。

コミ さういふ約束でしたぞ。

マーシ いかにも。約は違へません。タイタス・ラーシヤス、もう一度君に見せようか、わたしがタラスの面上へ剣を打下すところを？ え、もう手足が硬

張りますかいい？ 今度は傍観ですか？

タイタ いゝや、マーシヤス。たとひ撞木杖に倚りかゝつてゐても、片手で以て戦

ひませうよ、此役に居残つてゐるよりやア。

メニ や、あつばれです！

一元老 議事堂へ御同行しませう、あそこには主な元老たちが先刻から待つてをられる筈です。

タイ (コミニヤスに) さ、お先きへ。(マーシヤスに) あなたはコミニヤスの次ぎに。わ

れはあなたのおとに續くのが當然です。

コミ さ、マーシヤスさん。

一元老 (市民らに) みんな、家へ歸れ。歸れ！

マーシ いや、ついて來させるがようごす。ブルサイには穀物が澤山ある。此鼠

どもをつれていつて、敵の穀物倉を咬らせませう。おい、暴徒諸君、君た

ちは中々勇敢いよ。ねえ、尾いて來てくれ。

市民らここそくと退き去る。シ、ニヤスとブルータスの他は皆

入る。

シ、ニ あのマーシヤスのやうな傲慢な男が曾てあつたでせうか？

ブルー 全く無類です。

シ、ニ 先刻われが保民官に選ばれた時に

ブルー あの仁の目附や口元にお氣が附きましたか？

シ、ニ いや、それよりもあの毒舌。

ブルー 憤つたりといふと、どんな神さまをだつて、茶々無茶に馬鹿にする男です。

シ、ニ 貞淑な月神をも嘲弄します。

ブルー どうか今度の役でやられてしまへばいゝに！ 勇敢無双だと自負し切つてゐるから始末におへない。

シ、ニ あゝいふ男は、うまく成功したりといふと、正午に踏むうぬが影坊師をさへも輕蔑します。あの傲慢不遜な男がコミニヤスの命令に服従してゐますか知らん。

ブルー 彼れの目的は、彌が上にも名譽を得ようといふのだが、名譽は第一位よりも第二位にゐるはうが得易くもあれば保ち易くもある。といふのは、すべて失敗は總大將の責任になるからだ。よし總大將が人力の限りを盡してもだ、浮氣な輿論は、きつとマーシヤスを引合に出して、「あゝ、あの男に

やらせりやア、こんなことはないのに」とわめくでせう。

シ、ニ のみならず、事がうまくいつた場合には、俗論はマーシヤスを片晶屑して、コミニヤスから其功績を剝取るでせう。

ブルー さ、おいでなさい。(先きに立ちながら) コミニヤスの名譽の半分はマーシヤスの有になります、彼れが與つてゐなからうとも。又すべてコミニヤスの過失はマーシヤスの名譽になるでせう、たとひ彼れに何一つ功績がなかつたにもせよ。

シ、ニ さ、あつちへ行つて、どういふ風に軍隊が派遣されることになつたか、聞きませう。それから、奴が例の癖以上の、どんな風で出陣するか、それを見ませう。

ブルー 御一しよに参りませう。
はひ 入る。

第二場　　ヅルサイの一都會コライオリイ。元老議院。

將軍　タラス・オリフィデヤスを先きに元老議官ら出る。

元老　では、オリフィデヤス、あなたは、もう羅馬人どもは、此方の計劃をも進軍の模様をも、既に聞知してをるとお考へなさるのですか？

オリフ　あなたつてさうお考へでせう。從來此國の計劃で、それがいよく具體的に實行せられる以前に、羅馬人の爲に裏を掻かれなかつたことが曾てありますか？　自分が此報道を得たのは、つい四五日前の事です。かういふ文面です。こゝに其通信を持つてた筈です。はい、こゝに在ります。

（讀む）。「敵は一軍を徵發せり、されど東西いづれに向はんとするか不明なり。飢饉甚しく、民衆は暴動せり。噂によれば、コミニヤス、及び貴下の舊敵マーシヤス　彼れは貴下に憎まるゝ以上に羅馬人に憎まれをれり

：：：並びに最も勇敢なる羅馬人タイタス・ラーシヤスの三人を將として何處へかの軍備をなせり。おそらく貴下を敵とせるならん。すべからく考慮せらるべし」。

元老　わが軍は既に出發してゐます。羅馬方に應戰の準備があらうとは、勿論覺悟の前です。

オリフ　但し止むを得る限りは、今度の大計劃を敵に知らせないやうにしておくのを必ずしも愚だとはお考へでなかつたでせう。ところが、それがまだ弊化らんうちに露顯に及んだらしい。顯れて見ると、われ々の目的が幾分か縮少せられざるを得ません。わが兵の出陣を羅馬人が知るか知らんかのうちに、若干の市府を陥れることが出来たのでしたのに！

元老　オリフィデヤスさん、早速辭令を受けて軍隊をおひきゐなさい。此コライオリイの守備はわれ々にお任せなすつて下さい。が、若し敵がこゝ

へ攻寄せるやうなら、それを撃退するために、援軍を送つていたゞきたい。けれどもよもや敵方にそれほどの手配りはありますまい。

オーフ

おゝ、どうして〜！ たしかに手配りが整つてゐると聞きました。いや、そこどころか、敵の一小隊は既にもう出發して、専ら此方へと志してゐます。これでお別れします。若しもケイヤス・マーシヤスと會戦することゝなれば、誓つて、もう二度と戦ふことが出来んやうになるまで戦ひつゞける積りです。

皆

神々があなたを御助勢あるやうに！

オーフ

且つ諸君の名譽を保護なさるやうに！

一元老

御機嫌よう！

二元老

御機嫌よう！

皆

御機嫌よう！

皆々々入る。

第三場 羅馬。マーシヤスの家の一室

マーシヤスの母、グラムニヤ、其妻、グーシリヤ出る。二箇の低い腰掛けに腰をおろして縫ひ物をする。

ブラ

ねえ、お前、歌でも歌ふか、でなくも、何かして、もつと快活にしてゐておくれな。若し悴がわたしの夫であつたなら、わたしは彼れが名譽を得るための出陣の留守中をこそ最も嬉しい時とします、寢間で抱きかゝへて夫婦の愛情を示してくれる時よりも。あれがまだ極いたいだけで、わたしのたつた一人子であつた時分にも、うるはしい若衆と生長して、だれの目をも自分の方へ振向けさせてゐた時分にも、たとひ諸國の王たちがたつた一日貸してくれと頼んでも、一時間とは傍を離したくないといふのが母の情



であつた時分にも、あゝいふ人格に似合ふのは名譽だ、どんなに立派な人格でも、功名で光り輝かない以上、壁に掛かつてゐる畫像も同様だ、と斯う思つて、喜んで危険を冒させたのです、苟くも名譽の得られさうな場合には、残酷な戦争へも出してやりました。すると、櫛の小枝の冠を戴いて歸つて來ました。むすめ、ほんたうにわたしは、あれが生れた時、男の子だといふいて喜んだよりも、あれが男だといふ實證を見せてくれた時にこそ飛び上

つて喜びましたよ。

でも、お母さま、若しもそれが爲に戦死なさるやうなことがありましたら、どうなさいます。

ブラ

その時にや、あれの好い評判があれの身代りになりませう。それをばわが子とも思ふだらうよ。眞實の事をいひますが、わたしは、よしんば男の子が十二人もあらうと、それがどれもく同じやうに可愛く、お前同様またあのマーシヤス同様に可愛からうとも、其うち十一人は寧ろ國の爲に立派に討死を遂げさせたいと思ひます、酒色に耽つて、ぬらくらと一生を過させるよりも。

一 紳士役出る。

紳

奥さま、ワリリヤ夫人が御來訪でございます。

ワ

御免を蒙つて、わたくしは奥へ退りたうございます。

ブラ いゝや、退つちやいけません。お前の夫の軍太鼓の音がこゝへ聞えるやうにわたしは思ひます。オーフィディアスの頭髪を引ッ掴んで投倒して見るのを見るやうに思ひます。まるで子供が荒熊から逃げるやうに、ブルサイ人が彼れを避けるのが見えるやうです。あれが斯う足踏みをして、斯う叫ぶのが聞えるやうだ。「えい、従いて来い、卑怯者めら！ 汝らは羅馬で生れながら、臆病な腹から生れやがつたか！」それから、血みどろの額を籠手を穿めた手で以て拭ひながら突進します、敷物の葎を刈る爲に儲はれた農男が、残らず刈取らんけりや給料が取ないと思つてる時のやうに。血みどろの額ですつて？ おゝま、とんでもないことを！

グー 何を馬鹿なことを！ それこそ男子には一等よく似合ひます、記念碑に黄金の板なんか被せるよりも。ヘクタアに乳を飲ませてゐた頃のヘキユバ媛の胸部だつて、希臘兵と劍をまじへて血を流した時のヘクタアの前額は

ブラ

グー

どにはうつくしく見えなかつたのです。……(紳士役に向ひ) ヴリリヤさんにお言ひ、お待ち申してをりますつて。

紳士役 入る。

グー 天の神々さま、おそろしいオーフィディアスからわが夫をお守り下さいませ！

ブラ 彼れはきつとオーフィディアスの首ツ玉を自分の膝頭よりも下へ叩きつけて、其頭を踏みにじるだらうよ。

貴族の夫人 ヴリリヤ、一人の案内者と前に出た紳士役の者と一緒に伴はれて出る。

グー (會釋して) お二方とも、御機嫌よろしう。

ブラ 奥さん！

グー ようこそおいで下さいました。

ワリ どうお暮しです？ あなたがたは有名なお家持でいらつしやいますのね。何をお縫ひ遊ばして？ ま、ほんとにうつくしい模様ですこと！ お幼息さんはいかッ？

グー ありがたうございます。丈夫でをります。

ヲラ 学校の先生の顔を見るよりも劍の切り合ひを見たがつたり、太鼓を聞きたがつたりします。

ワリ まア、お父さまのお子ね、全く。ほんとに、可愛いお子さんですことよ。實際、わたくし此水曜日このすゐえうびに半時間はんじかんほどもちつと坊ちゃんぼつを見てゐましたつ。と、坊ちゃんぼつは綺麗な一疋びきの蝶々てふくを、それはく凛りんとしたお顔附かほつきをなすつて追ッ掛けていらしつて、捉へなすつたかと思ふと、放し、また追ッ掛けていつて、捉へては放し、放しては捉へてゐなさいましたが、お轉ころびなすつたのでお腹はらが立つたのですかどうですか、齒はざしりをなすつて、其蝶々そのてふく

を引裂ひきさいておしまひでした。お、まるでこなぐに裂ちぎつておしまひでしたの。

ヲラ 彼れの父ちちが疝癪かんしゃくを起おこした時に、ちやうどさういふことをしますよ。

ワリ ほんとにお立派りっぱなお子さんですことよ。

グー いたづらツ子こでございますの。

ワリ さ、お縫ひ物ぬものはお止とまさないましょ、けふのお晝後ひるごだけは、是非ぜひともわたくしと一しよに、怠なまけ奥さんおくにおなり遊あそばせな。

ワリ いゝえ、奥さんおく、わたくしは外出ぐわいしゆつはいたしますまい。

ワリ 外出ぐわいしゆつはなさらない！

ヲラ いゝえ、しますよ、はい、しますよ。

グー いゝえ、濟すみませんけれど、わたくしは、夫をつとが戦争せんそうから歸かへられますまでは、此園このしきんは跨またぎますまい。

フリ あれさ、さうなさるべき理由が、まるでないぢやありませんの？ さ、さ、あの煩わづらつておいでの奥おくさんを是非せひお見舞みまひにいらつしやいよ。

フリ わたくしあの方かたの一日いちにちも早くお治なほりになるやうに願ねがひもし祈いのりもしませう。けれどもお見舞みまひすることは出来できません。

ブラ まあ、なぜだ？

フリ 参まゐらないのは決して勞らうを厭いとワふのぢやありません、あの方かたを思おもはないからでもあります。

フリ あなたは第二だいのペネローピ媛ひめにならうといふのでせう。けれどもあのお后きさきがユリシス王わうの不在るすき中に紡つむいだ限かぎりの麻あま糸いとを蛾こくだらけにする用ようにしか足りなかつたと申まをすぢやありませんの？ さ、さ。わたしはあなたのその麻布あまぬのがあなたの指ゆびのやうに感かんじ易やすければよいと思おもひますの、可か哀はいさうだから、もう突刺つきこすのは止とまさんとおつしやるやうに。さ、是非せひ一ひ

よにいらつしやいよ。

フリ いゝえ、奥おくさん、堪忍かんにんして下さいまし。ほんたうに、出でられませぬの。

フリ いゝえさ、まあ、いらつしやいよ、わたし御主人ごしゆじんの事ことに就ついて、好いいお知らせをしますからさ。

フリ あら、奥おくさん、まだ知らせがあらう筈はずはありません。

フリ いゝえ、決して戲談じやうたんは申まをしません。昨晚さくはんお知らせがありましたの。

フリ え、ほんたう？

フリ ほんたうですとも、全くまったく。ある元老議官げんらうぎくわんさんから聞ききました。それは斯かうなんです。アルサイ人じんが兵へいを進すすめましたので、總大將そうたいしやうのコミニヤスさんは羅馬軍ローマぐんの一部ぶをひきゐて、それへ向むかはれました。お宅たくの御主人ごしゆじんとタイタス・ラーシヤスさんは敵てきの首府しゆふのクライオリの城門外じやうもんぐわいへ進すすまれました。必勝ひつしょうを期きして簡短かんたんに戦争せんそうを終おる積つもりださうです。これは、大丈夫たいぢやうぶ、

事實です。ですから、一しよにいらつしやいよ。

奥さん、すみませんけれど。この次からは、何でもおつしやる通りにしま
すから。

オラ うツちやつといて下さいまし、奥さん。此様子ぢや、却つてわたしどもの

氣を腐らせてしまひませうから。

グリ なるほど、さうでもありません。ぢや、さやうなら。(と行きかけて)ねえ、奥

さん……よ、ブーヅリヤさん、そんな鹿爪は戶外へ逐ひ出してしまつて、

一しよにいらつしやいよ。

グー いゝえ、決して。ほんとに、出ませんの。どうぞ、あなた、たんとお楽しみ遊

ばせ。

グリ では、さやうなら。

グリリヤ入る。

第四場 コライオライ市の城門外

太鼓手や旗手らと共に、マーシヤスを先きに、タイダス・ラーシヤス、
各部將ら、兵士ら出る。と使者役一人其反對側から出る。

マー 知らせが来た。賭をしよう。きつと會戦したんだ。

ラー いゝや。我輩の馬を賭ける、君のに對して。

マー よろしい。

ラー 賭けたよ。

マー (使者役に)どうだ、將軍は敵と開戦に及んだか？

使 敵は見える處に陣取つてゐますが、まだ開戦には及びません。

ラー ぢや、あの駿足は我輩のだぞ。

マー 君、買ひ戻さう。

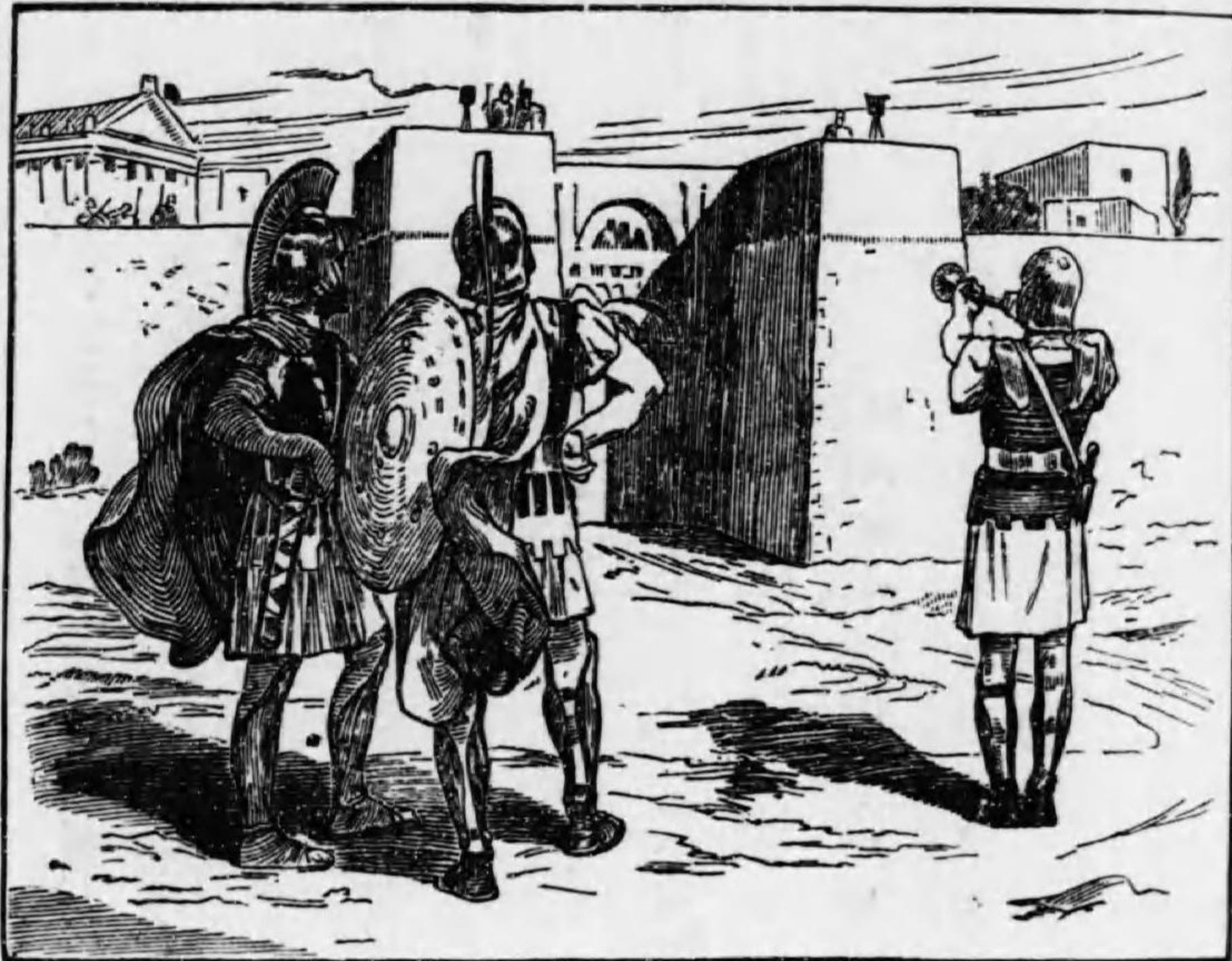
ラー いゝや、賣りもしない、やりもしない。貸さうよ、五十年間の契約で。 :
さ、市民へ勧告しろ。

マ (使者に) 敵軍はこゝからどのくらゐ離れてゐる?
使 約一哩半です。

マ ちや、奴らの突貫の合圖はこつちへ聞え、こつちのは向うへ聞えるだらう。
さ、さ、マーズ尊神、どうぞ手早くやツつけさせて下さい、血煙の立つ剣を
提げて、こゝからすぐに野戦中の身方を應援に行くことの出来るやうに。
…さ、喇叭を吹け。

陣頭談判の喇叭を吹き鳴らす。コライオライの城壁の上
へブルサイ市の元老議員二人他の者共を従へて出る。 マー
シヤスは元老議員に向つて

マー タラス・オーフィディヤスどのは此城内にゐますか?



一元老 いゝや。また彼仁程度以上
に貴下を怕がつてゐる者も
いません、といふのは、少しも怕
がつてゐないといふことで
す。(遠くて太鼓の音)。お聞きな
さい。あの太鼓で若い者共
が出て來ます。われは
迷ひ家畜のやうに閉籠られる
よりは、城壁を破つて出ます。
城戸々々はまだ閉ぢてあるも
のゝ、其實、葭で門がしてあ
るも同然です。おのづから

開くでせう。(遠くて突貫の合圖)。お聞きなさい、そら遠ウく。あれはオー
フィディヤスです。そら、彼仁がどんな働きをするか、君がたの二手に
分れた軍隊中に?

マ (聞き耳を立てて) あ、やはりはじめた!

ラ あの勇ましい音に教へられる。 . . . おい、梯子だ!

ブルサイの軍隊、城内より突出する。

マ 奴らはわれわれを恐れんで、突出して來る。さ、みんな、楯を胸部に構

へて、楯以上にたしかな度胸で以て奮闘しろ。 . . . お進みなさい、勇敢なタ
イタス、敵は案外にもわれわれを侮蔑し切つてゐる。それを思ふと、汗が
出るほどに癢にさはる。さ、さ、身方の奴ら! 一歩でも退くやうな奴は
ブルサイ人と見做すから、おれの劍に觸れんやうに用心しろ。

マ シヤス 敵中へ切つて入る。

突貫の合圖の喇叭が鳴り渡る。羅馬軍敗北して壘壕へと
退く。

マ シヤス 又出る。齒齧みをしつゝ罵る。

マ

南方のありとあらゆる毒氣が汝らの體中に降りかゝれ、羅馬の恥晒しめ、
おのれら! 畜生めら、癩のやうな、むさい腫物で體中を塗りこくられて、
目に見えんくらゐ遠い處にゐても忌み嫌はれ、一哩も離れて風上にゐても
互ひに傳染しあふやうになりやアがれ、おのれ! 人間の姿をした鴛鳥の
化物め! 猿にだつてぶちのめされさうな奴隷どもに負けやアがつて逃
けたさまはどうだ! どツ畜生め、うぬ! 劍はみんな後ろ劍だ! 脊は
眞赤だが、面は、おびえて逃げるので、眞蒼だ! えい、持直して突進し
ろ! さうせんと、おのれ、おれは敵をうツちやつといひ、汝らを叩ツ切る
ぞ。注意しろ。引ツ返せ。汝らさへしつかりすりや、あいつらを嫌ア

どものところへ叩き戻すのは何でもないんだ、汝らが奴らに斬濠へ追ッ詰められたやうに。

また突貫の合圖の喇叭。今度はブルサイ人が敗北する。マ
ーシヤスはそれを追ッて城門へ追りながら

さ、これで、城戸が開いた。おれが先登をするから、しつかりつけ。こ
りや運命めが追ッ手の爲に開けたんだぞ。逃げ込む奴らの爲ぢやない。
さ、おれを見倣へ。

マーシヤス 門内へ切つて入る。

一兵 向う見すだ。おらアいやだ。

二兵 おれもいやだ。

マーシヤス 門内へ閉め込まれる。

一兵 あ、とうとう閉め込まれッちまつた。

突貫の喇叭なほ續く。

皆 こりや地獄おとしだ。

タイタス・ラーシヤス 出る。

ラー マーシヤスは どうせられた？

皆 きつと戦死せられたでせう。

一兵 敵の逃げるのを追ッかけて、一しよに入んなすつたんです。と、突然に門
を閉めたんです。マーシヤスさんは一人きりですのに、敵は全市です。

ラー あゝ、偉い男だ！ 感覺のない劍さへも屈する時に、感覺がありながら、め
げないで突立つてゐる。あゝ、マーシヤス、汝はもう助からん。汝と等身
の紅玉石とても汝ほどには貴重ではなかつたのに！ 汝はケートーの理
想通りの武人であつた、單に殺戮する力が猛烈であつたばかりぢやなかつ
た。怖しい汝の顔、雷のやうな汝の劍の響が、敵をして、まるで全世界が瘡

に罹つて慄えるのかと思ふ様に、戦慄せしめた。

マーシヤス 血みどろになり敵に襲はれつゝ、又出る。

一兵 あれ、御覽なさい。

ラー

おゝ、マーシヤスだ！ 救ひ出さう。でなきや、一しよに倒れるんだ。

敵へ襲ひかゝり戦ひつゝ、一同市門内へ入る。

第五場 コライオライ。街上。

若干の羅馬人ら、めいゝく掠奪品を持って出る。

一羅

これを國へ持つてゆかう。

二羅

おれはこれを。

三羅

くそツ！ 銀だと思つたのに。（と拾ひ上げたものを抛り出す）

皆々入る。突貫の喇叭なほ遠くでつゞく。

マーシヤスとダイダス。
ラーシヤスとが喇叭手
をつれて出る。

マー

ごらんなさい彼奴らを、暇さへ

ありや駈けずり廻つて、がらく

た物を掻き集めてゐやがる！

座蒲團だの、銀の匙だの、鏢錢

の破片だの、獄卒だつて死人と

一しよに埋めツちまひさうな

下着だのを、まだ戦争が果ても

せんのに、あの賤夫めらは荷

造りしてやがる。どツ畜生め



ら！（聞き耳を立てて）や！ あの関の聲は、大将の本陣ですぞ。さ、應援しよう。不倶戴天の仇敵、オーフィディヤスめが、今正にわが羅馬軍を突破しようとしてゐるのだ。勇敢なるタイタス、君は入用なだけの兵を引きゐて、此市を守つてゐてくれたまへ。わたしは、勇氣のある奴らを引率して、急いでコミニヤスに助勢しよう。

ラー マーシヤスどの、貴君は手創を負つておいでです。もう既に激烈な働きをなすつたんだ。二度の駆けは無理です。

マー いや、お褒めにや及ばん。まだくこれからです。さよなら。このくらゐの手創は體の爲になるとも害にやなりません。この姿でオーフィディヤスにぶツつかつて勝負しませう。

ラー あゝ、あの美人神の運命めが、ぞつこん貴君に惚れて得意の媚惑力で、貴君の敵の劍鋒を悉くはづれさせてくれるやうに！ 大膽なるマーシヤスよ、

あの美しい大成功めを君の侍童にして凱旋したまへ！

マー どうか運命が、君のためにも、無二の、最上の親友であるやうに！ ぢや、御機嫌よう。

マーシヤス 入る。

ラー あゝ、比類のない勇士だ！……（喇叭手を見返つて）市場へ往つて其喇叭を吹立てて、此市の役人らを悉く呼集めろ。あそこで此方の意見を通告することにするから……さ、ゆけ。

みなはひ 皆入る。

第六場 コミニヤスの本陣附近

コミニヤスは退却の體らしく、兵士をつれて出る。

コミニ みんな休息するが、立派な働きだつた。いかにも羅馬人らしい振

舞だつた、無謀な抵抗もせず、卑怯な退却もせず。きつとまた襲撃して來るだらうぞ。先刻戦つてる最中に、時々風の具合で、身方の者が進撃してらしい物音が聞えて來た。……あゝ、羅馬の神々よ、どうかわれ〜同様彼等にも勝利を得せしめたまへ、わが軍が二手ともに笑ひ顔をして相會して、あなたがたにお供へ物をいたしますやうに！

使者役出る。

知らせは？

使 コライオライの市民らが突出しまして、ラーシヤス竝にマーシヤスを襲撃しました結果、わが軍は塹壕へ追ひ詰められました。手前は其際に其場を離れました。

お前は眞實の事をいつてるのではあるらしいが、間違つてゐるらしい。それはどのくらゐ前のことだ？

コミニ

使 もう一時間以上になりませす。

コミニ こゝから一哩とはない。つい先刻彼等の太鼓の音を聞いた。どうして、たつた一哩の處に、一時間も時を費して、こんな手おくれの報告をするのだ？

使 ヲルサイの斥候兵めが追撃しましたので、據なく三四哩も廻り路をしました。でなけりや、半時間も前に御報告したのでした。

コミニヤス 一方を見て

コミニ だれだあれは？ まるで生皮を剥がれた人間のやうだ。や！ ありやマーシヤスらしい。あの仁のあゝいふ風采を、前に見たことがある。

マー (聲で) 來やうが遅うごしたか？

コミニ わたしがマーシヤスの聲を他の劣者の聲から聞き分けるのは、牧羊者が雷と小鼓とを聞き分けるよりも容易だ。

マー (このうち一方より血みどろ姿で出て来て) 来やうが遅うごしたか?

コミニ さア、若しか貴下が敵の血ではなく、御自分の血を浴びておいでになつたのであれば。

マー お、妻を迎へた際の心臓の様に强健な此腕で以て貴下を抱擁しませう。結婚の式日が暮れて、蠟燭の火が闇へと輝いた時同様に、陽氣に、愉快に。

コミニ あ、勇士の精英どの、してタイタス・ラーシヤスはどうぞせられましたか?

マー 命令係りのやうに働いてゐます。或は死刑を宣告し、或は追放に處し、或は償金を許し、或は憐愍を垂れ、或は威嚇し、コライオライを、羅馬領として占領し了りました、恰も獵師が革紐で以て頻りに尾を振る獵犬を擒縦自在に扱つてゐるやうに。

コミニ おい、あいつは何處へ往つた、先刻敵が貴下を塹壕へ追ひ詰めたといつた奴は? どこへ往つた? こら、あいつを呼べ。

マー お構ひなさるな。そりや事實です。あのお旦那たちさへ、あの平民の弱

蟲どもさへゐなかつたら。……くそッ! あいつらに保民官もへツたくれも要るもんかい! ……若しあいつらさへゐなかつたら! ……鼠が猫を見つてあんなに恐がつて突走しりやアないんだ、しかも敵は奴らよりも意氣地がないんだのに。

コミニ だが、どうして盛返すことが出来ましたか?

マー そんなことを話してゐる暇がありますか? ありますまい。敵はどこにゐます? 全勝ですか? でなけりや、ぐづくしてゐべきぢやないでせう。

コミニ マーシヤス、實は大分不利な戦ひとなつたので、一旦引上げて更に再擧を圖らうとしたのです。

マー 敵の軍隊はどう陣取つてゐます? どの方面に其精銳が配置されてゐま

すか、御ぞんじですか？

コニニ 察するに、前面の一隊はアンチャム人らしい、すなはち敵の最も頼む所の精兵で、さうしてそれを率ゐてゐるのが、彼等の信望の中心たるオーフィデイヤスです。

マ一 ぢや、どうか、共に戦つたあらゆる戦争を引合ひに、共に流した鮮血を引合ひに、莫逆を盟つた其誓約を引合ひにして、お願ひです、すぐわたしをオーフィデイヤス及び其アンチャム兵に掛け向はせて下さい。さうして貴下御自身も脚躡なく直ちに劍をさしかざし、投槍を揮りひらめかしつゝ、即刻に勝敗を決せられんことを望みます。

コニニ 實はあなたを温湯にでも浴させて薬膏を塗らせるやうにしたいのが本意なのですが、御要求であつて見れば、敢て否むことはえいしません。最も役に立つとお思ひなさるとの兵士なりともおつれなさい。

マ一

最も好んで参加する者がよろしい。若し此陣中に、この、俺の體を塗り立てゝゐる斯ういふ彩色が好きなら、なからうなぞと疑ふのは罪悪だから……若しあるなら、若し不名譽を恐れると其身を恐れる以上の者があるなら、若し卑劣に生さんよりは勇敢に死なんことを欲する者があるなら、若し國を愛すること一身を愛するよりも以上である者があるなら、其男だけは、もしくは其男と志氣を同うしてゐる手合は、其決心を表すために、(と劍を高く揮り靡かしつゝ) 斯ういふ風に劍を揮つて、マ一シヤスに従いて來い。

兵士ら一同 絶叫しつゝ、めいめい、拔劍を揮靡かし、マ一シヤスを胴上げにして、おのゝ帽子を空へ向つて投げ上げる。

お、おれ一人を！ おれを君たちは武器にするのか？ さ、其熱心が表面だけでないなら、君たちは一人としてアルサイ人の四人や五人に匹敵し

ない者はないんだ。大オーフィディヤスに對して、互角の働きをなし得ない者は一人もないんだ。おれは君たち一同に感謝するよ。けれども君たちを、今みんな連れて行くわけにはいかん。残つた連中は、又此次ぎの必要に應じて、國の爲に働いてくれ。さ、出掛けて貰はう。だれか三四人で急いで號令を下して、有志の一隊を選抜してくれ。

コミニ

さ、さ、進發！ 今の其勇ましい振舞を實戦上に證明しろ、勝利品は悉く平等に分配することにするから。

入る。

第七場 コライオライの市門外

タイタス・ラーシヤスが一隊の衛兵をしてコライオライ市の守備たらしめておいて、自分はコミニヤスやケイヤス・マーシヤスを應援するた

めに、太鼓手や喇叭手らをひきぬて、出發する體にて、一副將と共に出る。兵士若干斥候一人従ふ。

ラー

よろしい。木戸々々をよく守らせて下さい。すべて規定しといた通りに任務をお盡しなさい。若し使ひをよこしたら、すぐさま百人組を應援におよこしなさい。其餘の者だけで、暫時は守つてをられるだらう。野戦のほうが駄目だと、到底此市は持ちこたへられないから。

副

われくの事は決して御懸念に及びません。

ラー

さ、ゆかう。出てしまつたら木戸をみんな閉めるがい。さ、案内者。羅馬軍の陣營へ案内してくれ。

入る。

第八場 戰場



戦闘中らしい突貫の喇叭の聲々。左と右とからマーシヤスとオーフィディヤスが拔劍を提げて出る。

マ― 俺はたゞ汝とばかり戦はうと思つてゐるんだ、背約者以上には憎いと思ふのは汝だから。
オ― こつちも其通りに思つてゐるんだ。アフリカのどの毒蛇

マ― よりもおれは汝の名の高いのを忌々しく思つてゐるんだ。
先きへ逃げ足になつたはうが奴隸になるんだぞ、さうして其後で神の懲罰を受けるんだ！

オ― 萬一にもおれが背を見せたら、怒鳴りかけて兎扱ひにしる。
マ― つい三時間前におれはあのコライオライの城壁内で奮闘して、思ふ存分の働きをしたんだ。おい、此おれの面を變色させてゐるのはおれの血ぢやアないぞ。さ、其復讐のために、汝の全力を絞り出して來い。

オ― たとひ汝が傲慢の先祖の一人のヘクタア程の勇士であらうと、おれの刃鋒を免れることは出來んぞ。

ふたり 二人激しく闘ふ。若干のゾルサイ人馳せ來つて、オーフィディヤスに應援する。マーシヤスが奮闘するので、應援者一同這ふ／＼の體で逃げ込む、とマーシヤス追つて入る。オーフィディヤ

スだけ残りて獨白。
弱蟲の癖に餘計なお節介をして、助太刀なんかしやがるので、おれが恥を搔いてしまった。

入る。

第九場 羅馬軍の陣營。

進軍の喇叭を盛んに吹き鳴らす。突貫の喇叭が聞える。
やがて退陣の喇叭が聞える。と一方からコミニヤスが羅馬軍をひきぬて出る。と他方からマーシヤスが其腕を布片で吊りあげて出る。

コミニ

君のけふの目覺ましい働き振をわたしが君に向つてしたとする、おそらく君は信じないくらゐだらう。えらいお手柄でした。わたしは元老らの集

まつてる處で、此通りを報告させよう。これを聴く貴族連は、泣きもし、笑ひもし、疑ひもしようが、結局驚き歎ずるでありませう。婦人連にも報告させよう、彼等は怖れをのきながらも愉快に感じて、更にくはしく聞かうとさせよう。それから、あの……微臭い平民らと共に、君が名譽を得られるのを忌々しく思つてゐる……あの鈍物の保民官らにも報告させよう。奴らとても、ついわれ知らず「羅馬國に斯ういふ勇士がゐるのは神のお庇だ！」といふでせう。だが、君に取つちやア、只今の手柄の如きは、大満腹後の肉一口に過ぎないんだ。

タイダス・ラーシヤス 其兵と共に敵を追撃し了つて出る。

ラー
お、將軍（と）いひながらマーシヤスを指さして、あそこにあるのが、あれが駿足なら、われは只もう馬具たるに過ぎんだ……若し貴下が……
マー
（制して）もうよして下さい。子を褒めるのを特權としてゐる阿母が褒める

のを聴いても、わたしは時々情なくなる。わたしは諸君のせられたわけのことにしたに過ぎない。力の及ぶだけをしたんだ。諸君と同じ動機からしたんだ。すなはち、國のためにしたんだ。苟くも愛國の志意を盡された人達は、みんな我輩と同等です。

コミニ

自分の勳功を自分で埋葬なさらうとしても、それは許されない。あなたの功績は、取りも直さず、羅馬みづからの功績である以上、あなたのしたことを隠蔽するのは美名を盗むのに當る、いや、汚名を被らすのにも當るでせう、讚美の絶頂まで褒め上げたとても尙且つ足らんくらゐの大名譽を少しも發表しないでおくのは。ですから、どうか……これはあなたの手柄を宣傳しようといふのぢやない、只事實の有りのまゝを表すのだから、全軍に對つて今わたしがいふことを聴いてゐなさい。

マー

今日の戦ひで手劍を負つてゐますから、その戦ひのことをいはれると、劍

コミニ

口が痛んでならんですよ。

いや、言はなかつたなら、劍口は、只痛むばかりでなく、われ々の忘恩を憤つて、腐り爛れて、終には命に係るやうな外科療治を要するでせう。……夥しく勇捕つた敵の軍馬の全部の、又戰場で及び市中で得たあらゆる戦利品の十分の一は君へ提供します。其を全軍へ分配するに先きだつて、君の一存で、真先に、氣に入つたのをお取りなさい。

マー

將軍、お禮を申し上げます。しかしながら、此劍の報酬に賄賂を貰ふことはわたしには出来ません。眞平です、わたしは飽迄も平等に振つて貰ひます。戦ひを只観てゐた手合とでも同等に扱つて貰ひます。

此途端喇叭を長い間吹き鳴らす。一同聲を合せて「マーシヤス！ マーシヤス！」と叫んで帽子や投槍を空中へ投げ上げる。コミニヤスもラーシヤスも脱帽して敬意を表する。

マ

(憤然として) 君たちが冒瀆する其喇叭は、二度と音を出さないやうになつちまへ！ 太鼓や喇叭が戰場で諂諛者の役廻りをするやうなら、宮廷や市府は偽善面の追従で以て埋められつちまへ！ 鋼鐵が阿附者の絹布物のやうにへなくになつた時分には、其べんべらを戦争用に供するがい！
 こら、もうよして下さい！ おれは戰場で鼻血が出たのを洗ふこともしなかつたとか、或弱蟲の敵を取りひしいだとかいふので、そのくらゐのことは爰にゐる手合で、人に知られないで幾らもしてゐる。…それなのに、君たちは御大層におれを喝采する、ちつぽけな手柄を、嘘で味を附けて、美め立て、貰ふことをおれが好きこのんで、もゐるやうに。

コミ

そりや餘り謙遜過ぎます。われは只有りのまゝを表彰してゐるのです。そりやわれへの御挨拶といふよりも御自分の名譽を罵倒してゐなさるんだ。失禮ながら、さう御自分を…自ら害せんとする人の如く

に…虐待なさるやうでは、先づあなたに手錠を穿めておくことにします、さうしておいて、やつと安心してお談を進めます。…かやうな次第であるから、吾々同様世上一般の者に、今度の戦争の花鬘を戴く者はケイヤス・マーシヤスであることを知らしめたい。その標證として陣中で知られてゐる我輩の駿足を、其裝飾一切を添へて、マーシヤスへ贈ることにする。且つ今日から、コライオライ市に於ける彼れの勳功を表するために、全軍擧つて、聲を限りに、「ケイヤス・マーシヤス・コロオレーナス」と呼ぼう。以後は常に此名譽號を帯んで下さい！

喇叭、太鼓を盛んに鳴らす。

皆一齊に歡呼する。

皆々

ケイヤス・マーシヤス・コロオレーナス！

コロオ

顔を洗つて來ませう。顔が綺麗になつた時に、果して赤面してゐるかど

うかが分りませう。併し(とコミニヤスに)ありがたう。お馬は頂戴して騎ります。又下すつた稱號はわたしの力の及ぶ限り、始終頭上の飾とします。では、天幕へ往つて、就眠する前に、此勝利の模様を羅馬へ書き送ることにしよう。タイタス・ラーシヤス・あなたはコライオライに戻つて往つて、市民中の最も適當な者を羅馬へ送る指圖をして下さい、彼等のためにも、われわれのためにも都合のいゝ條約を締結し得るやうな人物を選抜して下さい。

ラー

承知しました。

コリオ

あゝ神たちがおれを弄りはじめた！つい今しがた、立派な頂戴賜をお断りした此口から、閣下に請求らんけりやならんものが出来ました。

コミニ

何でもあげますぞ。お取りなさい。何です物は？

コリオ

嘗て此コライオライで、ある貧家に泊つたことがありましたが、其家の主

人はわたしを深切にしてくれました。其男はけふ擒になつた。其時わたしを呼びました。けれどもちやうど其途端にオーフィディヤスの姿か向うに見えたから、憤激のために、彼れを憫れんでる邊がなかつたのです。どうか、あの可哀さうな男に自由を與へて下さい。

コミニ

あゝ、立派なお請求物です、たとひそれがわたしの倅を虐殺した男であっても、わたしは風同様の自由を與へませう。……タイタス、すぐ放免なさい。

ラー

マーシヤス、其男の名は？

コリオ

しまつた！ 忘れた！ 疲れたので、記憶力が疲れツちまつたのです。葡萄酒はありませんか、こゝに？

コミニ

さ、陣所へ往きませう。あなたの顔の血が乾きかけた。今のうちに注意しとかなくちやいかん。

皆入る。

第十場 ギルサイ人の陣所。

喇叭亂吹。コオネットを吹き鳴らす。タイタス・オーフィデイヤス 頁
傷したる體にて血にまみれ、兵士二三人と共に出る。

オー

とうとう市を奪られた!

一兵

早晚取戻すことが出来ませう、都合のいゝ條件で。

オー

あゝ、羅馬人であつたらなア! おれはギルサイ人だから、も

う以前のおれでゐるわけにいかなくなつた。條件で? いゝ條件といつたつて、憐愍を乞ふ敗北者側であつて見りや、好い條件なんか、條約上に得られるもんかい! マーシヤス、おれは汝とは五たび戦つた。そのたびにおれはやられた。此後とてもやれらさうだ、物を食ふ度數ほど手合せをしたからつて。おのれ、此次ぎ奴とぶツかるやうなら、きつと奴を殺す

一兵

あいつは悪魔です。

オー

大膽なことは悪魔以上だ、が、智慧は乏しい。あいつに汚されたばかりに、流石のおれにも卑怯な心が起る。正々堂々の勇氣ばかりぢやアやりきれさうにないわい。睡眠、靈廟、裸體、病患、或は拜堂、大神殿、或は神官の祈禱最中、或は犠牲を供へてゐる時、何でも構はん。すべて、暴擧を禁じ來つた陳腐な習慣や權利なんかは、マーシヤスめに對するおれの憤怨をどうすることも出来まいぞ。見附け次第、おれの宅にゐようと、おれの同胞が保護してゐようと、欺待の法に悖らうが悖るまいが、其場で以て此怨みを晴らさにやおかんぞ。……汝らは市へ往つて、敵の守備を見て來い、さ

うしてだれくが羅馬へ人質にやられることになつてゐるかを調べて來い。

一兵 あなたはおいでになりませんかですか？

オー おれはみんなが栢の杜で待つてる筈だから、あそこへ往つてる。市の水車の南のそこだ。世情はあそこへ知せてくれ。おれはそれに應じて行動するから。

一兵 承知しました。

はひ入る。

* * * * *

第二幕

第一場 羅馬。公街。

メニ、ヤスと共に保民官のシ、ニヤスとブルータスとが出る。

メニ 占者は今夜中に知らせがあるといひます。

ブルー 吉報ですか、凶報ですか？

メニ マーシヤス嫌ひの平民連の祈願からいふと、悪だね。

シ、ニ 造化は動物に何を好くべきかを教へます。

メニ では、承はらう、狼は何を好きます？

シ、ニ 仔羊を好きます。

メニ さやう、食ふためにな。ちやうど飢えてゐる平民連がマーシヤスを食はうとしてゐるやうにね。

ブルー 成程、あの人は仔羊でさ、けれども吠く聲は荒熊です。

メニ 成程、あの仁は熊だ、けれども平生は羊だ。君たちは年長者だから、一つ聞かして貰ひたいことがある。

二人 とおつしやるのは？

メニ マーシヤスは只ほんの些少有つてゐるだけだが、君たち二人は夥多に有つてるといふ大缺點が何かあるかい？

ブルー あの人にはほんの些少なんて缺點はありません、どの缺點も有り餘つてます。

シ、ニ とりわけ傲慢です。

ブルー 大口を叩くことに掛けちやア肩を並べる者はありません。

メニ こりや不思議だ。君たち自身が、今、市で、どう評されてゐるかを知つてゐるかい、われ／＼右方席の者に？

ブルー へい、どう評されてます？

メニ 今、君たちが傲慢でことをいつたから言ふが……怒りやしまいね？
(やゝ急ぎ込んで) え？ とおつしやるのは？

メニ なアに大したことぢやアない。だが、斷つたのは、堪忍袋で奴は、つい一寸とした機會で綻びることがあるからね。どうか、お心任せに手綱をゆるめて、お腹をお立てなさい、そのほうが御意に適ふならばだ……君たちはマーシヤスを傲慢だといつたね？

ブルー さういふのは手前らばかりぢやありません。

メニ 君たちは何事も單獨では能いしない。いつでも大勢の助太刀附きだ。さ

うでなきや君たちのする事はおそろしく單純だ。つまり、獨り立では大した事の出來んのが君たちの生得だ。それでゐて傲慢論をするのかい？ 目を頸首の方へ向けて、自分の頭の中を觀測することが出來るといふのに！ あゝ、それが君たちに出來るといふのに！

これは「人は皆胸に他人の瑕疵を收れた袋を掛け、自分のを收れたのを頸から脊へ掛けてゐる」といふ諺を勻はしたのであす。

二人

さうしたらどうだといふのです？

メニ

さうすれば、そこに忽ちやくざな、高慢な、無法な、剛情な市役人、別名阿呆、しかも羅馬中のどの阿呆にも劣らんのが一組だけ發見されようといふんだ。

シ・ニ

(嘲弄口調で) メニ、ヤスさん、さういふ貴下だつて、随分札附でさ。

メニ

(むつとして) 札附だ？ さうさ、氣まぐれな貴族として、タイバア河の水なんかは只の一滴もまじつてをらん強い酒を飲む男として、とかく先へ出た訴訟人を片最負する男として、氣が短くて忽ち赫となる引火奴のやうな男として、朝の頭とよりも夜の尻と交際ふことの好きな男として。おれは思ふ存分を口へ出して言ッちまつて、毒氣を抜く。君らのやうな國士たちには……まさか兩ライカルガス君とはいひかねるがね……お目にかゝつた場合にだ、君らのお饗應がわしの舌に適はないと、随分苦い顔もする。君らの發音中に阿呆の阿の音が多過ぎると、まさか「兩閣下お上出來」とも稱めかねるよ。君らを嚴格な故老だと稱める位は忍耐も出來るが、君らを正直者だといふに至つては眞赤な嘘だ。さ、これがわしの癖だ。わしの此癖が此小世界圖(身體)に見えたとする、どうしてそれが札附といふことになるんだ？ よしんば札附にもしろ、君らの其霞眼でどういふ不

都合が見附けられる、此おれの性質中から？

ブルー だつて貴下、貴下を知らん者はありやしません。

メニ なんの君らが知つてゐるものか、おれをだつて、自分自身をだつて、何をだつ

て！ やくざ者にぺこ〜お辭儀されるのを名譽がつてゐる君らだ。一

等大切な午前を蜜柑女と樽栓屋の裁判で潰しツちまつて、尙足らんで、た

つた三片の訴訟事を翌日まで延期しようといふ君らだ。訴訟を聴いてゐる

最中に腹痛でもはじまると、滑稽假面のやうな面附をして、七顛八倒の大

騒ぎ。公事を裁くどころか却つて滅茶苦茶にしてしまふのが定りだ。と

い、原被兩造を暗雲に「馬鹿ッ！」と怒鳴り附けて退出させるのが結末だ。

君らは不思議な動物だよ。

ブルー まアさ〜、あなたは食卓の取持役としては立派な口悪屋さんだが、議官さ

んとしては、根つから必要のない人間だてとを知らない者はありやアしま

せん。

メニ

君らのやうなのに出會はしやア、しかつめな神官だつて、つい悪口をいひ

たくなるだらう。一等もつともらしく口をきいてゐる時でも、君らが、其

髭をひよこつかすのは似合はんよ。其髭は、たかゞ、座蒲團の詰物にする

か、驢馬の荷鞍へ埋葬するか、いや、それでもまだちつと名譽過ぎるくらゐ

だ。でも尙君らは、あのマーシヤスを傲慢だといふのか？ 幾ら廉く見

積つても、マーシヤスは、大洪水以來の君らの先祖全部に…或はその先

祖たちの錚々たる者は代々獄卒であつたかも知れんがね…其全部に相

當するだけの價値を有つてゐる…では、兩閣下、御機嫌よう。此上君ら

と話をしてゐたら、頭が變になるかも知れんから、君らはあの人間らしく

ない平民連のお飼主さんでおいでなさるから。甚だ失禮ながら、これで

お別れします。

ブルータスとシ、ニヤスとは不興げに一隅へ退く。

と一方からマーシヤスの母、ブラムニヤ、其妻、ヴーヅリヤ、ヴーヅリヤの友達の、ヴリリヤ夫人が出る。

メニ、ヤスはそれを迎へて

これは、く、氣高くておうつくしい御婦人たち、月神が天降られても、あなたがたほどではあるまい。何をさうじつと見詰めておいでなさるのです？

ヴラ
メニ、ヤスさま、倅のマーシヤスが歸つて参るのです。憚りながら、お通し下さい。

メニ
えッ！ あの、マーシヤス君がお歸りですか？

ヴラ
はい、さやうでございますの、非常な名譽を荷ひましてね。

メニ
(帽子を脱いで、高く空中へ投げあげながら) ジューピター！ これをお受け下さい。

ありがたう！ いや、どうもありがたい！……マーシヤス君が、あの全く

お歸りですか？

ヴラ
はい、全くです。

ヴラ
(二通の書状を出して見せて) もし、これが倅からの書面です。政府へも一通、嫁へも一通来ました。それからあなたへも一通、お宅へもう届いておませう。

メニ
今夜は祝盃を挙げませう、宅がくるくと廻るほどに。わたしへも一通ですつて？

ヴラ
はい、大丈夫です、たしかに参つてゐるのを見ました。

メニ
わたしへも一通！ 其でわたしの壽命が七年延びます。其間醫者にやア御用なした。例のガレンの無類飛切の處方だつて、只もうその欺瞞的なものです、此大妙薬に比すれば、馬の薬ぐらゐなものです。え、負傷なさ

りやしませんでしたか？ 負傷してお歸りなさるのが定例なんだが。

グー (早口に) いゝえ〜〜。

ゾラ (嫁の言葉を打消すやうに、手強く、大ツびらに) はい、負傷しました。おゝ、それをわたしは神様がたに感謝します。

メニ わたしもです、若しそれが急所でない限りやア。勝利を懐にしてお歸りのやうなら、負傷はなはだ結構。

ゾラ 傷は前額です。メニ、ヤスさん、あれが櫛の冠を戴いて歸つて來るのは、これで二度目です。

メニ オーフイディヤスをやツつけたんでせうな、手ひどく？

ゾラ タイタス・ラーシヤスさんからの手紙には、二人は一騎打をした、けれどもオーフイディヤスは脱れたとあります。

そいつは結局彼奴に取つても好都合でした。若し彼奴がいつまでも戦

ひつ付けてゐたとすると、わたしは到底オーフイディヤス扱ひにされるのを好まなかつたでせうから、コライオライ中の金庫を、いや、其金庫内の金貨全部を貰つてもだ。元老らは此事を心得てゐますか？

ゾラ (二婦人に) さ、行きませうよ。…(メニ、ヤスに) えゝ、心得てますとも〜。

コミニヤス 將軍からの報告が届いてますから。將軍は、勳功の全部を倍の力だと報告しておいでくださうです。倍は、今度の役で、従前の手柄の倍以上をしてのけました。

フリ 實際、マーシヤスさんは、今度えらい御出世をなさるといふお噂がありますのよ。

メニ えらい出世！ さやう、その通り。が、それは正當な理由あつての事です。どうぞ正當な理由の伴ひますやう！

ゾラ え、正當だつて？ 正當でなくつてさ、馬鹿な！

メニ え、正當？ 無論正當です。ねえ、何處を負傷なすつたんですえ？ (此時

や、近くへやつて来た兩保民官を見附けて、大きな聲で) よう、兩閣下、御機嫌よう！

マーシヤスが歸つて來ますぞ。ますく、傲慢に振舞ふべき理由が出來た

のですぞ。…何處を負傷したのです？

ゾラ 肩と左の腕とです。候補として立つ段となれば、随分目覺しい創痕を平

民共に見せることでせう。タークインを逐ひ返した時にも、胴に七ヶ所負

傷しました。

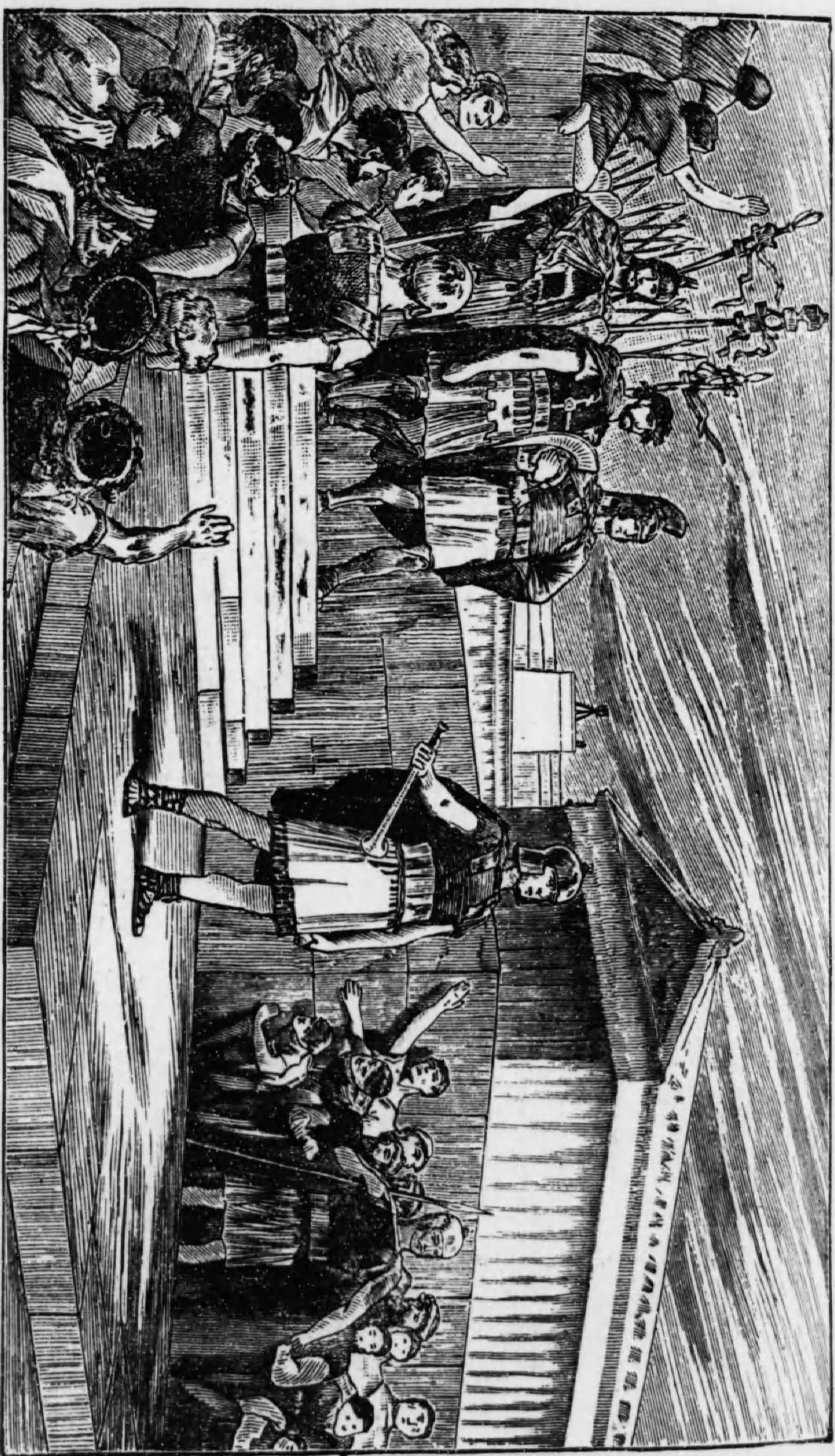
メニ 一ヶ所は頸、二ヶ所は股でしたね。わたしが知つてゐるだけでも九ヶ所あ

る。

ゾラ 今度の外征以前に、もう既に二十五ヶ所の創を受けてゐます。

メニ 今ではそれが二十七ヶ所になる。其創口の一つづつが敵軍の墓穴であつ

たんだ。(歡呼の聲と喇叭の音とが聞える)。あ、喇叭が聞える。



ブラ あれはマーシヤスの先觸れです。前には歓迎の騒がしい物音、後には敗軍の敵の涙。おそろしい死の神は彼れの逞しい腕に宿つてゐる。一たびそれを揮りおろせば、刃向ふ者は皆殞れる。

センネット調の樂を奏する。喇叭が鳴り渡る。將軍 コミニヤ
 スとタイタス・ラーシヤスが出る。コリオレーナスが二人の間に挟まれて解の小枝で製した輪冠を戴いて出る。各部將ら、兵士ら及び傳令使がついて出る。

傳令

羅馬人諸君よ、お心得なさい。マーシヤス殿は、コライオライの城門内に於て、此たび、只一人にて奮闘せられましたによつて、名譽を博されたと同じ時に、ケイヤス・マーシヤスの姓名に加へて、コリオレーナスの榮號を得られました。……名譽あるコリオレーナスどの、羅馬が歓迎の意を表しまする！

喇叭を盛んに吹き鳴らす。

皆々

(一齊に)名譽あるコリオレーナスどの、羅馬が歓迎の意を表しまする！

コリオ

(いかにも不快さうに) もう止して下さい、心持がわるくなる。どうか、もうよして下さい。

コミニ

(コリオレーナスに) あ、ごらんなさい、お母さんが！

コリオ

おゝ！ (とドラマニヤの傍へ走り寄つて、跪いて) きつとわたくしの成功を神々にお祈り下さつたでせう。

ブラ

あゝこれ、大勇士、まアお起ちなさい。(コリオレーナス起つ)。わしの優しいマーシヤスよ、家名を辱めないわしのケイヤスよ、それから、今度の勳功によつて、新たに……あゝ、何とかいつたね？ さうく……。……コリオレーナスと汝を呼ばんけりやならんのかい？……おゝ、そこに嫁女が！

寡黙な温淑なグーシニヤは、此間つゝましやかに、嬉し涙に

くれて控へてゐる。

コリオ おゝ、なつかしい無口どの、めでたう！ おれが若し棺に收つて歸つて來たら、卿は笑ひでもする積りか、勝つて歸つて來たのに、卿は泣いてるぢやないか？ 夫や子をなくしたコライオライの女らこそ然ういふ目附をしてゐるんだ！

と妻を抱く。

メニ (こらへかれて大きな聲で) おめでたう、おめでたう！



コリオ (見返つて手を握つて) おゝ、まだ生きてたのかね？ (ふとグリ、ヤを見附けて) おお、奥さん、これは失禮。(と會釋する)。

此間、チラムニヤは凱陣の諸將校に挨拶するとて、あちこちを

見廻してゐる。

ゾラ どつちへ向いてよいか分らん。…おゝ、ようこそお歸りなさいました。…(コミニヤスに) おゝ、將軍、おめでたうございます。…皆さん、お歸りなさい。おめでたうございます。

メニ 千たびも萬たびもおめでたう！ 泣きたくもあるし、笑ひたくもある。氣が浮いたり、沈んだりする。おめでたう！…(コリオレーナスに) 君に會ふのを喜ばんやうな奴は、心臓のすぐ附根のところから咒はれはじめやがれ！ (コミニヤスやラーシヤスを見返つて) あなたたちは此羅馬が惚れて、惚れ抜いて然るべき三豪傑だ。ところが、實際、此市内には、さる苦酸ッばい林檎の木がある、そいつだけは、どう接木をして見ても、到底あなたたちとは舌が合はん。いや、おめでたう！ 尋麻は尋麻扱ひ、阿呆共のする事は阿呆扱ひにしておくことさ。はゝゝゝゝ！

コミニ 相變らずだ。(と笑ふ)。

コリオ いつでもメニ、ヤスです。(と笑ふ)。

傳令 (群衆に)そこをお開けなさい。さう、前へく。

コリオ (母に)お手を。(妻に)卿のも。(と別れの握手をして)宅へ歸つて休息する前に、

貴族たちを訪問しなくちやなりません、歓迎を受けただけでなく、いろ

いろな榮典を授かつたのですから。

ブラ 長生をしたお庇で、日頃の念願が成就しました、わたしの空想が事實の建

物となりました。只まだ一つ不足してゐるものがありますが、それとて

も、今に羅馬がきつと汝に與へませう。

コリオ お母さん、わたしは他人の流儀を奉じて主權者になるよりは、自己流で奉

仕者になつてゐるのが好きです。

コミニ さ、さ、殿堂(議事堂)へ！

喇叭を盛んに吹き鳴らす。コオネットを奏する。一同は儀仗堂々ト入る。

ブルー タスとシ、ニヤスだけ残り、前へ出る。

ブルー あの男のことを口にしなない者はない。眼鏡を掛けてまで、あの男を見よ

うとする。饒舌の乳母は、嬰兒が引附けるやうに哭いてるのに、あの男の

ことをべちやくちやく。下婢は煤だらけの頸根へ餘所行の麻ハンケチ

を巻附けて、石垣へ這上つて、あの男を見ようとする。店も、陳列臺も、窓

も、屋根も人で一ぱい。屋の背にも馬跨り、種々雑多の面が一生懸命にあの

男を見ようとしてゐる。容易に出て來ない神官連までが平民連と押しあ

ひへしあひ、息を切らして見好い場所を探してゐる。平素は面覆をして

ゐる貴婦人連までが、焼附くやうな太陽にキッスされて、其うつくしい豊

頬の紅白がめちやくくなるのも構はないでゐる、といふやうな亂騒ぎ

だ。まるで、或守神さまが、何神さまだか知らんが、そつとあの男の人間の能力の中へ入込んで、見かはずやうな優美な姿勢でも與へたかのやうに。突然に執政官になりますぜ、保證。

ブルー さうなつたら、われ／＼の職務は上つたりだ。

シ、ニ が、逆もあの男は、穩當に、始めあり終りあるやうに職務を行ひ得やしません、きつとやりぞこなひまさ。

ブルー そこに多少の氣休めがある。

シ、ニ 大丈夫です、われ／＼が代表してゐる平民連は、もと／＼あの男を憎がつてるのだから、何か一寸した機さへありや、すぐに榮譽職を奴にやつたことなんかは忘れつちまひます。さういふ機を奴がまたきつと與へる、傲慢で、とかくさういふことをしたがるんですから。

ブルー わたしはあの男が斯う斷言するのを聞いた、おれは假令執政官の候補にな

つたからつて、決して市場へは出ない、又謙遜の意を表する襤褸着物なんかも着ない。又慣例通り、民衆に創痕を見せて、あの惡臭い口に、どうか賛成と言つてくれつて發聲を頼むやうなことも決してしないと。そりや結構です。

ブルー たしかにさう言ひました。あ、多分、執政官にはならないでせう、紳士連や貴族連が懇願でもしない以上は。

シ、ニ どうかさういふ決心を實行してくれるやうにしたいものだね。

ブルー 十中八九まではさうするだらうよ。

シ、ニ さうして、れりや、われ／＼が努力したも同様に、奴の身の破滅さ。

ブルー 奴が破滅するか、われ／＼自身が破滅に及ぶかだ。要するに、奴が今尙民衆を憎んでることを、此際、平民連に吞込ませることが必要です。奴は、及ぶ限り、彼等を驢馬同様に虐使つて、辯護者には口を開せないやうにし、

自由や権利は悉く剝取らうとしてるてとを。つまり、彼等を人間らしい行爲や能力には堪へないもの、陣中の駱駝だけの智慧力量もないもの、只もう荷物を脊負ふために飼葉を附與はれてはゐるが、若し脊負ひ得なけりや、手酷く打撲めすは當然だと、斯う思ひ込んでゐるてことを。

シ・ニ
それを、君のいはれる通り、民衆が奴の不遜を憤つてる最中に吞込ませりやア……奴は、一寸喉けさへすれば、羊に於ける犬の如く、すぐに無禮な行動をするから……民衆は乾いた刈株が烈火に觸れたやうに燃え上るでせう。さうして其光焰が奴を永久に暗くしてしまふでせう。

使者役出る。

ブルー
何事か起つたかい？

使
議事堂へお出向を願ひます。マーシヤスが執政官になられさうです……啞子や盲人までがマーシヤスを見よう、聞かうとして雑沓してゐます。

ブルー
あの人が通られますと、年とつた婦人は手袋を、若い令夫人や娘たちは肩掛けやハンケチだのを投附けます。貴族たちはジョーヴの尊像に對するやうに腰を曲げます、平民衆は帽子の雨を降らせ、喝采の雷を轟かせてゐます。あんな騒ぎは曾て見たことがありません。

ブルー
(シ・ニヤスに) では、議事堂へ往つて、先づ油断なく、耳と目とを働かせませう。が、いざとなりや勇氣をね。

シ・ニ
(うなづきつゝ) 参りませう。
入る。

第二場 同前 大殿堂。

甲乙二吏員出て座蒲團を配置する。

甲
さ、さ、もうすぐ来るよ。執政官の候補は何人だね？

乙 三人ださうだ。だが、だれでもコリオレーナスが持つてつてしまふだらうと思つてゐる。

甲 ありやア傑い男だ。けれどもおツそろしく傲慢で以て、平民嫌ひだ。

乙 むかしから随分大人物もあつたのだが、いざとなると、概して平民に阿諛つたものだ、内實は彼等を嫌つてゐながら。かと思ふと、どうといふ理由もなしに、平民連に好かれる豪傑もある。好くのに理由がないとすりやア、憎がるのにも理由はないといへる。だから、コリオレーナスは、奴等の本來性を呑込んでゐて、奴等が好かうが、憎まうが、構はないのだから、其大度量が奴等を歸服せしめるよ。

甲 さア、若しその、好かれようが、憎まれようが、構はないといふ程度だと、彼等の敵でもなく、身方でもないのだが、あの男は彼等よりも熱心にわざと憎まれさうな事ばかりするから、どうしたつて敵視されないわけにはいか

乙 ない。ねえ、わざと平民連に憎まれるやう、怒られるやうにと爲向けるのは、あの男が平素爪弾きをしてゐる好かれる爲に阿諛るといふ行爲と五分五分のわるいこつた。

甲 だが、あの男は國の爲に立派な事をしたんだ。同じく出世といつても、帽子を脱いで、只べこく民衆にお辭儀をしたばかりで、外に何一つ、名譽も尊敬も博し得なかつた手合のとは異ふよ。あの男の名譽、功勞は彼等の目や胸に沁込んでゐるべきだから、彼等がそれを黙つてゐるやうなら、恩も義理も知らん奴等だといはなけりやなるまい。況んや、事實と反對のことを言ひ觸らすなんぞは、大嘘吐きの骨頂なんだから甚しい惡意だ、それを聞きちやア、誰だつて彼等を非難しないわけにはゆくまい。

もう噂は止さう。偉い男だよ。道を開けよう、みんながやつて來たから。 センネット調を奏する。 警吏(棒)を束れて其内部に鉞を、刃だ

けを外へ現はして、包み込みて縛りたるファシーズといふ一種の標器を捧げ持つてゐる警吏を先頭に立て、執政官のコミニヤスが出る。つゞいてメニ、ヤス、コリオレーナス、元老院議官らが出る。保民官のシ、ニヤスとブルーナスが出る。元老らはおのゝ其席に着く。保民官二人も同前。コリオレーナスは立つてゐる。

メニ

ブルーサイ人に關する件並びにタイタス・ラーシヤス呼戻しに關する件が既に決議と成りました上は、此第二次會の主要件として残る所は、國の爲に身を楯となして、あの如き大勳功を立てられた其人の勞に報ゆる事であります。元老院議官諸君に申します、現執政官にして過般の好運なる戰勝の將軍たりし御仁をして……こゝにわれゝが感謝の意を致すと同時に、其人相當の榮譽を以て其功勞を記念せんために、特に列席を求めましたケ

甲元

イヤス・マーシヤス・コリオレーナスどの、大勳功に關して……幾分かの報告をなさしめられますやう、謹んで希望いたします。

コミニヤスどの、お話し下さい。お話が長くなりませうとも、決して御省略下さるな。功に報いんとするの意志は餘りあれども、國家の力がそれに副はないといふ風に、われゝ共に感ぜしめて下さい。(保民官らに)民衆の長老たち、どうか十分の好意を以て聽いてゐて下さい、さうして、只今ここでわれゝが決議に及ぶことを、後刻、好意を以てよろしく執成して、平民たち一同へ傳へて下さい。

シ、ニ

われゝは本日の御評議に參與することを得たのを甚だ満足に存じてをる次第ですから、此御會合の主題たる御仁に對しては、もとより尊敬の念を抱き……

ブルー

むしろ喜んで御推薦致すでありませう、幸ひに御當人が從來以上の好意を

以て民衆を遇せられるやうでありますれば。

メニ おい、そんなことは餘計だ。餘計な事をしやべるにや及ばんよ。それよりもコミニヤスさんの話を聴くがい。

ブルー はい、聴きますとも。しかし、手前が今申したことは貴下の其お小言よりも割切なことです。

メニ あの仁は平民連を愛してはゐるよ、けれども逆も同衾の友とまではいかない。……コミニヤスさんの演説がはじまる。(此時コリオレーナスと起つて出て行かうとする。メニ、ヤスそれをとめて) いや、そのまゝにしておいでなさい。

甲元 コリオレーナスどの、そのまゝ。御自分の立派な功績をお恥ぢなさるには及ばん。

コリオ 甚だ失禮ですが、自分はどうして此劍を得たかを話されるのを聴いてゐるよりは、むしろもう一度荒療治を受け直したほうがいと思ふからのです。

から。

ブルー 手前が只今申したことの爲に御退席ではございますまいね。

コリオ いや、決して。だが、わたしは言葉からは折々逃げた、劍の打撃からは曾て逃げたことがないのだが。併し、君のは阿諛ぢやないから平氣だ。

わたしは君のはうの手合を、只其目方だけに可愛がつてるんだ。
メニ まあ、席にお着きなさい。

コリオ つまらん手柄を御大層に褒め立てられるのを惘然と聴いてゐるよりは、突貫の喇叭が鳴つてる最中に日向ぼっこをして、頭の雲脂でも搔せてゐたほうが優だ。

コリオレーナス 入る。

メニ おい、民衆の長老たち、あの男は自分の名譽を表彰されるのを聴くよりも、四肢五體を、名譽の爲に、もう一度危地に曝したいといつてるよ。

それだもの、どうして君達の、あの無数の魚卵連に……一千疋の中で上等なのは、たかゞ、一疋だらう。……おべつかることなんか出来るものか？……
：コミニヤスどの、おはじめ下さい。

コミニ

わたしでは聲が足るまいと思ひます、コリオレーナスどの、勳功は、逆も
孱弱い聲では言ひ盡さるべきでないのですから。……そもく勇敢は最上
の美德であつて、此徳を有する者は最も尊厳なりとある。果して然らば、
自分が今稱揚せんとする其人は、天下に只一人の匹敵者もないといつて差
支はない。十六歳の時に、彼のタークインが羅馬に攻寄せた時、彼れは拔
群の働きをしました。當時のわが指揮官、自分が賞讃して止まない當時
の執政官が彼れの奮戦するのを見たのですが、彼れは女武者の如き、頤を
しながら、虎髭の唇どもを逐ひ靡け、あはや殺されんとする一羅馬人の
上に掩ひとなつて跨つて、執政官の目前で三人の敵を倒し、また敵王ター

クインと一騎打をして、忽ち彼れを跪かせました。舞臺でなら、女形で
もあるべき年齢でありながら、其日の第一の勇士たる實を擧げ、其賞とし
て解の冠を戴いたのでありました。學童時代にもう既に壯丈夫となつ
てゐた彼れは、大海の如くに膨脹して、其後十七回の激戦の衝に當つて、他
の萬劍の名譽を常に獨りで占領しました。この最近の、コライオライ市
門外并びに其市門内に於ける彼れの功績に關しては、到底語り盡すことは
出来んと申さねばなりません。彼れは先づ逃げる身方を制し、身を以て
稀有の模範を示し、臆病者をも激勵して、恐怖を遊戯とも思はしめました。
敵兵は帆を揚げた船の前の海草かなんぞのやうに従ひ靡き、其船首に觸れ
ては、忽ちはたくと倒れました。死の極印たる彼れの劍は、それが押捺
する限り、處を選ばず、頭から足まで眞二つに斫割ります。彼れ自身も血
の塊でした。彼れの一舉一動には、死ぬ敵の唸き聲が間拍子を合せま

した。彼れは只一人で怖るべき敵の城門内へ乗込み、鮮血を以て其門扉に敵の必滅を縦横に標章し、救助をも待たんで取つて返し、さて援兵を得るや否や、さながら惑星の荒れたるが如く、忽ちにしてコライオライを陥れてしまつたのです。今や何もかも彼れの有となつた。折柄、関の聲が彼れの鋭敏な耳を貫いた。彼れの勇氣は更に倍加し、忽ち疲れたる肉體の力を回復し、再び戰場へやつて參つて、果しもなく破壊を行はんとするかの如くに、無數の死體に血煙を立てつゝ、馳せ廻つて、市をも郊外をも悉くわが軍のものと稱し得るに至つたまでは、決して息をも繼がなかつたのでした。

メニ いや、どうも、偉い男だ！

甲元 どんな榮典を案出しようとも、それがきつと彼仁には相當しよう。

コミニ 彼れは戦利品を足蹴にして、どんな貴重な物をも糞土の如くに蔑視し、客

奮其者が甘んじて與へるよりも以下の品を取り、只功を成すこと其事を以て報賞として、事を成遂げさへすれば、それでもう満足だといつてゐるのです。實に全く立派な男です。改めてお呼び入れなさい。

甲元 コリオレーナスどのを呼び入れろ。

吏員 (二方を見て) 參られました。

コリオレーナス 又出る。

メニ コリオレーナスどの、元老院は貴下を執政官に任じようとしてをられますぞ。

コリオ 元老諸君の恩命を忝く存じます。

メニ では、此旨を貴下から民衆へお話しなさい。

コリオ いや、其慣例に従ふことは、どうか、御免を蒙りたい。破れ上被を着て、肌を露して突立つて、負傷を言ひ立てに推選の發言を彼等に請願することは

自分には出来ません。どうかそれをする事は御免下さい。

シ、ニ いや、民衆は是非とも發言權の運用を欲します。彼等は寸毫も儀式の削減を許しません。

メニ 彼等を怒らせないが、ねえ、慣例はお守りなさい。諸先輩がした通り、儀式を行つて、榮職をお受けなさるが、

コリオ さういふ事をするのを自分は恥ぢる。それは須らく民衆から剝奪すべきものです。

ブルー (シ、ニヤスに) あれをお聞きなさい。

コリオ あいつらに向つて、自分がかういふ働きをしたと高言して、痛みもない、隠すべきが當然の舊創を見せるなんて、まるで彼奴らに推選して貰ひたいばかりに創を負つたかのやうに。

メニ さう剛情をお張りなさるな。……兩保民官どの、どうかわれわれの要望を

元老ら 民衆一同へ傳へて下さい。……(元老らに)どうか、諸君、新執政官どの、爲に賀意と敬意とお表し下さい。

コリオレーナスどのにあらゆる慶びあれや！ あらゆる榮譽あれや！

コオネットを盛んに吹き鳴らす。シ、ニヤスとブルーダスだけ残りて、他は悉く入る。

ブルー ね、あの男は、どういふ風に民衆を取扱はうとしてゐるか、分りましたら。

シ、ニ あゝ、一同があつた男の腹の中を覺れば、いゝが！ あれぢやア、まるで民衆に推選權のあるのを俺は蔑如してゐるぞと言ひ、推選させようとするんです。

ブルー さ、こゝでの顛末を一同の者に知らせませう。市場に集まつて待つてませうから。

第三場 同前、公演場

七八人の市民出る。

一市

つまり、どうか推選して下さいと頼まれて見りや、否とはいへまい。

二市

なアに、さういほうと思へば、いへるよ。

三市

無論、さう言へる、けれども口で言ふだけのことだ、實行する力はこちとらには無いや。といふのは、若しあの仁が創をわれ〜に見せて、手柄話をするとになると、われ〜はめい〜、其幾つかの創口へ、一々舌を突込んで代言を勤めなけりやアならないからね。すなはちあの仁が立派な手柄話をすりやア、われ〜もまた立派に、公平に、それを承はつたといはなければならん義理合だ。恩を知らないのは人間ではない、化物だといふからね。ところが、數萬の民衆がみんな恩知らずになつた日にやア、忽ち

一市

數萬の化物が出来るわけなんだが、われ〜自身が其民衆仲間なんだから、われ〜もまた其化物仲間にならないわけにはいかないといふことになる。

二市

もとからわるく思はれてるんだ、此上わるく思はれるにや手間ひまはいらない、現にいつか穀物のことで一揆を起しかけた時に、あの男はこちとらを罵つて頭澤山の群衆共といつたらう。
さういふ名をわれ〜に附けたのは、まだ他にも大勢あつた。それは、こちとらの頭が或は栗色、或は眞黒、或は赤鳶、或は禿ちよるであるといふのではなくつて、こちとらの智慧の働きがそんなに色々になつてゐるといふのだ。成程、若し誰れかの頭蓋から其智慧の有つたけが飛び出したとしたら、そいつらは東西南北に飛び廻るだらう、さうして一直線にといふことだけが一致で、めい〜一齊に羅針盤の各方點へ向つて突進するだら

う。

二市

さうだらうか？ で、君は、僕の智慧はどつちへ飛ぶと思ふね？

三市

いや、君の智慧は、他の手合のやうに、さう早急には飛び出さないだらう。何にしろ、石頭の中に挟み込まれてるのだからね。だが、解放されたとなりや、きつと南の方へ飛ぶだらうよ。

二市

どうして南へ？

三市

南は霧澤山だ、で、その霧で途惑ひをして、濕氣で腐つて、約四分の三は融解けてしまつて、四分の一だけが、さすがに濟まなれと思つて、戻つて來るだらう、君が妻君を探す手傳ひにね。

二市

定例でまた口悪をいつてゐらア。澤山言ひたまへ、たんと。

三市

(改まつて、一同に) え、諸君はいよく、あの仁を推選する積りですか？…だが、そりやどうでもいゝや、多數決だからね。併し、ねえ、若しもあの仁

が真にわれ〜に同情してゐるやうでありや、實際あの仁くらゐ立派な男は曾て無かつたんでさ。…

コリオレーナス 謙遜の意を表する破れ上被を着て、メニ、ヤスと共に出る。

皆々

あゝ、あの仁が來た、謙遜服を着て。どういふ風にやるか見てゐたまへ。一しよに固凝つてゐちやいけない。一人づゝ、二人づゝ、又は三人づゝ、あの仁の立つてるところへやつてつて、一人々々に要求を申し込ませて、こちとらもまた、めい〜一人づゝ舌を働かして、あの仁のために發言するの名譽を有つことにするがいです。だから、僕に従いて來たまへ。どういふ鹽梅式にしてあの仁に近寄るかてことは僕が指圖しよう。

一同入る。

メニ いや、そりや貴下の考へが間違つてゐる。むかしから、どんな英傑でも、みんなこれを行つたぢやありませんか？

コリオ ぢや、どうしても言はんけりやならんのですか？どうか、貴下、何分にも「

と？……くそをくらへ！ そんな甘ツたるい口が叩かれるものか！……「御覽下さい手前の劍を！ これは國家奉仕のために受けたものです。其際、諸君の御同族の某々君の如きは、身方の陣太鼓の音に驚いて、わツといつて突走られました」

メニ とんでもないことを！ 決してそんなことをいつちやアいけません。専ら貴下の事を考へさせるやうに頼まんけりやいけな

コリオ え、わたしの事を考へさせる？ 眞平だ！ わたしの事は忘れて貰ひたいんだ、説教師が奴らに説法するたびに無にする道徳のやうに。

メニ ぶちこはしておしまひなさりさうだ。これでお別れします。どうか、ね

え、いゝ具合にあの手合と應對して下さい。

メニ、ヤス入る。

前の市民中の三人だけが出る。

コリオ (見送りつゝ) 奴らに面を洗はせて、齒をもつと清潔にさせて下さい。……(市民の近寄るを見て) あゝ、一組だけやつて来た。……君たちは何故おれがこゝに立つてるかを知つてるかい？

三市 知つてます。が、どういふことが原因でさう爲さるのでありますか、それを承はりませう。

コリオ おれの功勞がさせるのよ。

二市 あなたの功勞！
コリオ さうよ、おれが望むんぢやアない。
三市 え、お望みなさるんぢやないんですか？

コリオ さうとも。おれは貧乏な手合から、請願つて物を貰はうなんぞと思つたことはない。

三市 なアに、何かお獻げ申しやね、どうせあなたからも何かいたゞく積りてをりまさア。

コリオ ふん。ぢや、その、執政官の代價てのを聞かしてくれ。

一市 只御懇に請求なされば、それでいゝのです。

コリオ 御懇に！……(ぶきつちやうな敬語でこでは、どうか御推選を願ひたいね。創痕は幾らもあるから、それは差向ひの時に見せるよ。どうか何分御賛成を。え、どうだらうねえ?)

二市 へい、承知しました、賛成します。

コリオ 約束したよ。まづ、これで、お二人分の御推選をおねだり申したわけだ。お有りがたうございます。さよなら。

コリオレーナス 立ち離れる。

三市 (二市民顔を見合せて) 何だか變妙

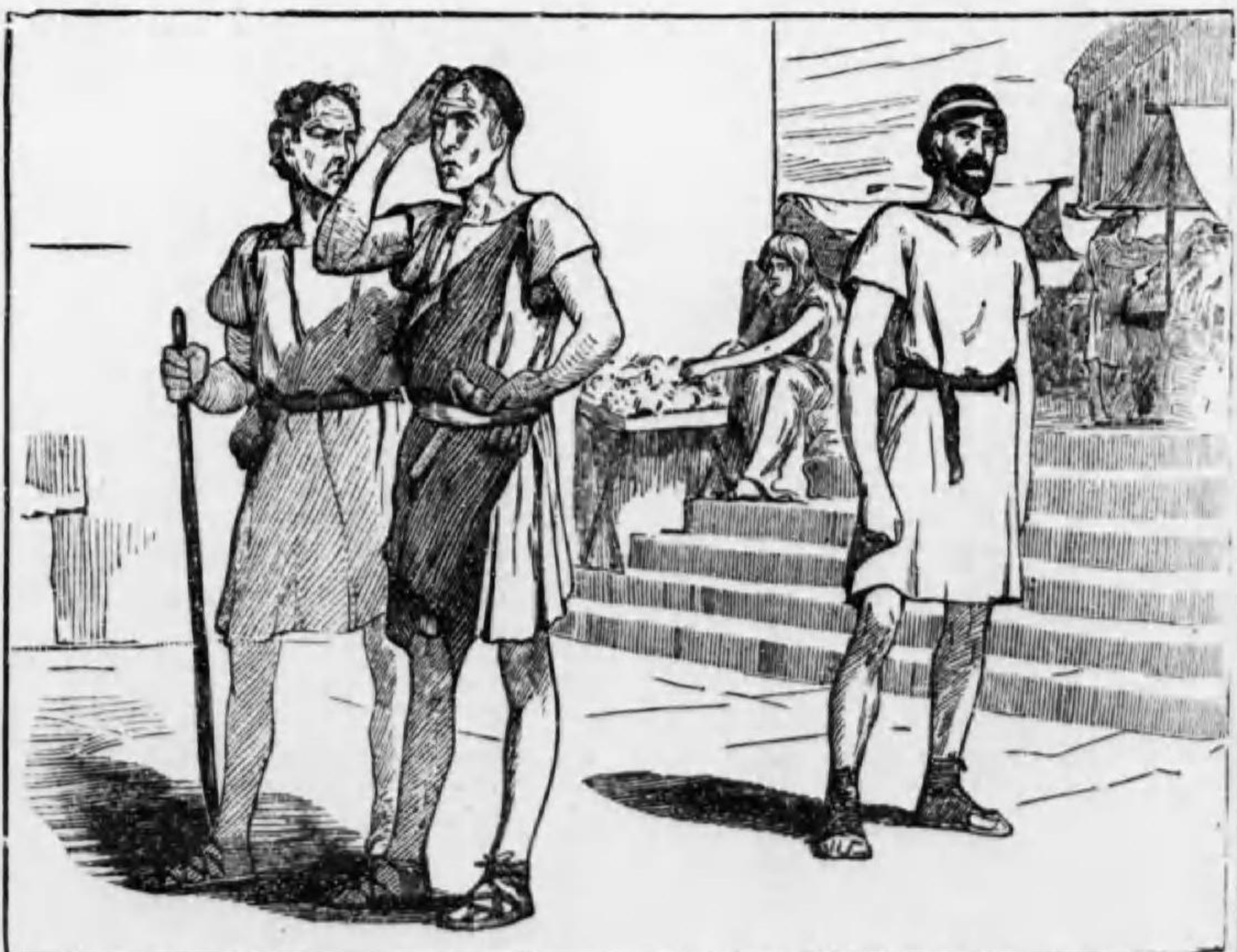
來だね。

二市 何だかやり直させなけりやならんやうだね。まア、いゝや。

二市人 入る。

他の二市人、四と三とが出る。

コリオ (二人に向つて) ねえ、お願ひだ、おれを執政官に推選することに賛成してくれたまへ。この



通りお定まりの破上被を着て來てるんだ。

四市 あなたは立派に國の爲になつた人であるけれども、國の爲にならなかつた人でもある。

コリオ その謎は？

四市 あなたは國の敵を脅懲する鞭であつたのです、けれども、身方を折檻する根棒でもあつたのです。あなたは平の民衆連を曾てお愛しになつたことがない。

コリオ さう平一面に愛さなかつたのをこそ美德だと思つてくれなくツちやいかんだ。が、これからはお追従をするよ、莫逆の友たる平民諸君に、すつとよく思つて貰ふためにね。さうするのを彼の手合は紳士的だと考へてゐるのだから。あの手合の料簡では誠意よりも帽子の方が餘ッ程有りがたいものになつてるんだから、おれもこれからは力めてお辭儀をして、愛

嬌を振撒いて、いかにも尤もらしく帽子を脱ぐことにしようよ。といふのは、今の人氣役者の民心收攬術をやつを真似て、それを望む手合へふんだんに與れてやらうといふんだ。だから、どうか、おれを執政官にしてくれたまへ。

五市 多分、わたしどもの身方になつて下さるだらうと思ひますから、わたしは喜んであなたの推選に賛成します。

四市 あなたは國の爲に大變に手創をお受けなすつたつてね。

コリオ だが、其創を見せて、君たちの知識に奥印を押すことはしないよ。いや、御賛成下さつて、詢にありがたう。もうこれでいゝ。もう用はないよ。

四、五 どうか御成功なさいますやうに！

二人 入る。

コリオ や、どうも御賛成有りがたう！ ありがたうございます！……いつそ死ん

だはうがました、飢死したはうがました。當然取るべきものを強請つて貫ふとは何のこつた！ なぜこんな毛織の上被なんかを着て、こゝに突立つてゐなけりやならんのだ、出逢ひがしらのホップだのチックだのに必要もない推選を請求るために？ え？ 習慣がさせるんだ。習慣が欲するからツて、何でもしてゐた日にやア、古代からの塵埃が掃除される機会がないから、終にや誤謬事ばかりが山のやうに積重なつて、眞實事の這出す隙間がなくなツちまふだらう。こんな馬鹿な眞似をするよりや、すべて高位や榮職は斯ういふことの好きな奴らに遣ツちまつたはうがい。……が、もう半分がた行つたんだ。これだけ忍耐した以上、もう半分だ。やツつけよう。

更に六、七、八の三市人が出る。

推選權めが又やつて來た。……賛成を頼むよ、おれは君たちに賛成して貫

六市 ひたいばつかりに戦つた。徹夜して番をしたのもその爲だ。君たちに賛成して貫ひたさに、二十四五所も負傷してる。三六十八回の戦争を見たり聞いたりしたよ。君たちに賛成して貫ひたさに、いろんな事をした、小さい事や大きい事や。賛成してくれ。實際、執政官になりたいたんだ。

六市 (仲間を顧みて) 立派な働きをした人だ。正義を重んずる者は、だれだつて

あの人を推選しないわけにやいかないだらう。

七市 だから、執政官にしようよ。神々さま、どうぞあの人に慶びをお下し下さい！

あの人を民衆の親友になすつて下さい！

皆々 アーメン！ アーメン！……では執政官さん、御機嫌よう！

皆々 入る。

コリオ や、どうも御賛成ありがたう！

メニ、ヤスを先きに、アルータスとシ、ニヤスと出る。

メニ、 定例の刻限はもう過ぎました。保民官たちが民衆の推選と共にあなたを就任させることになったのですから、此上は、職務の徽章を付けて、すぐさま元老連にお會ひなさればそれでいゝ。

コリオ おや、これで済んだのですか？

シ、ニ 必要な慣例だけはお済しになったのです。民衆は貴下を御推選したので、で、早速彼等を召集に及びまして、これから公式に御就任式を行はうといふのです。

コリオ どこで？ 元老院で？

シ、ニ はい、元老院で。

コリオ 此服装は替へてもいゝのかね？

シ、ニ よろしうございます。

コリオ ちや、早速さうしよう。さうして自分らしくなつて元老院へ往かう。

メニ 一しよに往きませう。(保民官に) 君たちは？

ブルー 手前どもはこゝで民衆を待つてゐませう。

シ、 (コリオレーナスらに) 御機嫌よう。

コリオレーナスとメニ、ヤスと入る。

ブルー 望を遂げたので、大將、大満足の體だね。

ブルー 服装だけは謙遜だが、根性の傲慢は相變らずだ。…え、民衆を解散しませるか？

市民ら出る。

シ、ニ (市民らに) いかゞです、諸君？ 諸君はあの仁の就任に御賛成ですか？

一市 みんな賛成です。

ブルー 神々たちよ、どうかあの仁が此人々の信頼に負きませんやうに！

二市 アーメンです。…或は手前の勘違ひかも知れませんがね、あの仁は手前

どもに賛成を求めてゐながら、妙にちやかしてゐました。

三市

さやう、たしかに嘲弄してゐました。

一市

いゝや、ありやあの仁の癖です。嘲弄したんぢやない。

二市

いゝや、君以外にや只の一人だつて、輕蔑されたと感じなかつたものはないです。第一、功勞の證據を見せなげりやならなかつたですよ、國の爲に受けた創をです。

シ・ニ

そりやアした筈ですが、たしかに。

皆々

いゝえ〜。一人だつて見た者はありません。

三市

負傷は受けてゐるが、それは差向ひでなくては見せられないといつてね、帽子を如是風に、馬鹿にしてるやうに揮廻して、「執政官になりたいんだが、古い慣例で君らの賛威がなげりやアなれないから、君らの賛成を」といふのでさ。で、わたしらが「よろしい」といふと、「御賛成下さつてありがたう。

いや。ありがたうございます。賛成さへして貰やア、もう君らにや用はないです。これでも嘲弄下ないでせうか？

シ・ニ

君らはそれが分らんほどに鈍感なのか、いゝえさ、そんな男に好意の賛成をするほどに低能なのか？

ブル

なぜ君たちはあの仁にさう言はなかつたんだ、かねて教へておいた通りに？ あの仁がまだどういふ權力をも有たんで、政府の小役人であつた際に、常に君たちに悪意を持つてゐて、國家の一員としての君たちの自由や特權に反對ばかりしてゐたぢやアないかと。だから、今若し權力を得て國政を左右する段となつて、尙且つ平民族に敵意を存してゐるやうだと、彼仁を推選するのは、取りも直さず、君たち自身を咒ふのであるてことを。それから、君たちは斯ういふべきであつた、彼仁の功勞は慥かに執政官たるに相當してゐる、だから君たちに賛成して貰はうと思ふなら、是非先づ

從來の悪意を悉く捨て、十二分の好意を以て君たちの親友となつてかゝらねばならんと。

シ、ニ
前に忠告しておいた通りに、若しも君たちがさういふ風に言ひさへしたら、あの仁の本心に觸れて、どう君たちに仕向けようとしてるかを十分試すことが出来たらうに。さうすりや、いざといふ場合に履行させる好意の約束をも取結ばせることが出来たらうに。或は、苟くも自由を束縛されるやうな約束は、それが如何な箇條であらうとも、決して忍耐しないと、いふのが氣むづかしい彼仁の性來だとすれば、彼仁は、それを聽いて、きつと腹を立つだらう、腹を立てりやそれを理由にして推選しないことにすることも出来たらうに。

ブルー
君たちに好意を乞ふ場合にすら、露骨に輕蔑の意を示してゐたらうぢやないか？ 君たちはそれを認めてゐながら、其輕蔑が、彼れが君たちを壓潰す權力を得た場合には、とんだ怖い武器になるてことを豫想しないのかい？ え、君たちの體の中には勇氣はないのか？ どうしてそんな無分別なことをしつちまつたのだ？

シ、ニ
君たちは頼まれてさへも拒絶したことがあるぢやないか？ それなのに、頼まれないばかりか、君たちを嘲弄してゐる者の爲に、望み手の幾らもある選舉權を捨てようとするのか？

三市
(仲間の者に) まだあの男と確定したんぢやないから、今なら拒絶することが出来る。

二市
拒絶することにしよう。わたしは五百人だけは同意させる。

一市
わたしは其倍の人数とその同志の者とを同意させよう。

ブルー
さ、すぐ往つて、同志の人達においひなさい、番犬は用のない時に吠えると撲たれるが、彼等もとんでもない執政官を選ぶために聲を揚げたから、以

後は自由を奪はれて、犬扱ひにされるぞとお言ひなさい。

シ、ニ

みんなを集めて、とくと再考して、無分別でした選挙を撤回なさい。あいつの傲慢なことや年来諸君に對して悪意を持つてゐることを力説なさい。それから、忘れないで、彼れが謙遜服を着てゐながら、あくまでも諸君を輕蔑してゐたてことを、けれども諸君は彼れの功勞を思つて、其無禮な行動に……諸君を執念ぶかく憎む餘りにする嘲弄に……心附かなかつたといふことを力説なさい。

ブルー

罪を諸君の代表者たるわたしたちに嫁して、わたしたちが無理やりに諸君をして彼れを選擧せしめたのだとおいひなさるが、い。

シ、ニ

諸君が彼れを選ばれたのは、彼れを好もしく思はれたが爲ではなく、むしろわたしたちが然う命じたからであつたとおいひなさい。爲すべき本務よりも當面の催促に心を奪はれて、つい心ならずも選挙したのだといつ

ブルー

て、わたしたちの故になさい。

さやう、わたしたちに斟酌は要らん。わたしがいろ／＼と説法したとおいひなさい。彼れが若い時から、數十年一日の如く、國の爲に盡したことや、其血統が所謂マーシヤス家だといふことや、其マーシヤス家のアンカスはニユマ王の孫で、彼の大ホスチリヤスに繼いで羅馬王となつたことや、彼のバプリアスやクインタスも同じ家の出だてことや、又わが最上等の水道を建造した上に、二度までも監察官になつたのでセンソリヤスといふ榮稱を得たケイヤス・ルーチラスも彼れの先祖であつたことなどを説法したとおいひなさい。

シ、ニ

血統がさうだつた上に、其功績上からも、高位に就くべき資格があるので、わたしたちがお勧めしたけれども、諸君は、彼れの現在の行動と其過去のそれとを較量された結果、彼れの抜くべからざる仇敵であることを悟つ

て、急に前説を翻されたんだとおいひなさい。

ブルー あくまでもわたしたちに強ひられて、餘儀なく選んだのだと主張なさい。さうして人員が揃つたら、すぐにカピトルへお集りなさい。

皆々 承知しました。もう大抵の者が後悔してゐます。

市民ら 入る。

ブルー 思ふさま行らせませう。今、一騒動起させたはうがい。うツちやつておくと、もつと酷いのが起る。彼等が拒絶すると、奴はきつと、生れ附通り、怒る。怒つたら、それに乗することにしよう。

シ、ニ さ、カピトルへ。民衆の押寄せないうちに往つてませう。さうすりや、半分はわれくがやらせたのだが、悉く彼等のしたことのやうに見えるだらうから。

ふたり 二人とも入る。

第三幕

第一場 羅馬。街頭。

コオネットを吹奏する。コリオレーナスを先きに、メニ、ヤス、コミニヤス、ダイタス・ラーシヤス、其他の元老及び貴族ら出る。

コリオ では、タラス・オーフィディヤスが新たに兵を起しましたか？

ラーシ さやうです。急に條約を締結せんければならんことになつたのは、それが爲です。

コリオ で、ブルサイ人は、舊態を恢復して、機會さへ來れば、再びわが國を侵さう

としてゐるのですか？

コミニ いや、疲勞し果てゝゐるから、われ／＼の存命中には、よもや彼等の軍旗が再び翻るのを見るやうなことはあるまい。

コリオ (ラーシヤスに) オーフイディヤスにお會ひでしたか？

ラー わが兵に護衛されてやつて來まして、市を引渡したアルサイ人の卑怯を罵りました。今はアンチャムに退隱してゐます。

コリオ わたしの噂をしましたか？

ラー しました。

コリオ どう？ 何といひました？

ラー たび／＼あなたと一騎打をしたといひました。此世で最も憎いのはあなたといつて、全財産を流れ質にしてもい／＼から、あなたを斃したいといつてました。

コリオ アンチャムにゐますか？

ラー はい、アンチャムにゐます。

コリオ 何か口實がありや、出掛けていつて、奴に會つて、その通りのことを言ひ返して欲しい。……ま、おめでたう。

シ、ニヤスとアルータスと出る。

あゝ、あそこへ民衆の代言者の保民官が來ました。わたしはあいつらを輕蔑する。かりにも見識がありや見てをられんあの役人ぶつた面附を御覽なさい。

シ、ニ (コリオレーナスらの進まうとするのを遮つて) あゝ、もし、おとゞまり下さい。

コリオ え？ どうしたのだ？

ブルー お出でになつちや危険です。おとゞまり下さい。

コリオ どういふわけ？

メニ、 どうしたのだ？

コミニ 貴族、平民、双方の賛成済みの上で就任されたんぢやないか？

ブルー いや、まだ濟んぢやあません。

コリオ ぢや、かれを選挙したのは子供か？

一元 保民官たち、そこをお退きなさい。 コリオレーナスどのが市場へ往かれるのです。

ブルー いや、民衆が彼れに對して憤激してゐます。

シ、ニ おとゞまりなさい。 でないと、大騒動になります。

コリオ そいつらはお前らの手下か？ 賛成したかと思ふと、又忽ち取消すやうな

奴らに大切な選挙権を有たしておくのか？ …お前らの職務は何だ？

彼奴らの口でありながら、お前らは、彼奴らの噛み附くのを制御すること

が出来んのか？ お前らが煽動したんだらう。 えり？

メニ、 まア、まア、

コリオ こりや豫定の行動だ。 貴族の意志を抑制せんために豫め企んでしたこ

とだ。 之を許しておきや、支配することも出来なけりや支配されることをも欲せんやうな奴らと、一しよに暮さなきやなりませんぞ。

ブルー 企んだとおつしやるな。 民衆はあなたに嘲弄されたツて怒鳴つてゐます。

それから、先だつて、穀類を民衆一般に施與された際、あなたがそれを惜んで、彼等の爲に請願者となつた者を罵倒して、阿世者だの、諂諛者だの、貴族の敵だのといはれたと怒鳴つてゐます。

コリオ そりやとうに知れてゐたことだ。

ブルー いや、みんなは知つてゐませんでした。

コリオ それを其後お前らが知らせたのか？

ブルー 何ですと？ 手前らが知らせましたと？

コミニ 君らはさういふことをしさうな人達だ。

ブルー 何でも、あなたがたよりは、善いことをしさうです。

コリオ (皮肉に) ぢや、執政官なんかは不當だ。あの雲に誓つて、お前らと同列の平凡な人間になつて、保民官でも勤めよう。

シ、ニ さういふことをおつしやるから、民衆が激昂するのです。若し強ひてお出向きになると、道が分らなくなり、頭を下げて行く先を訊かなけりやならんやうになりますぞ。執政官はさておき、保民官の同僚にだつてなれやしませんよ。

メニ、 まア〜。

コミニ 民衆は騙されたんだ。煽動されたんだ。かういふ二枚舌は羅馬人に似合はんことだ。立派な功勞者たるコリオレーナスどのに、無實の汚名を與へて妨害を試みるとは不埒だ。

コリオ おれが穀類をどうしたと？ 成程、あれに就いて言つたことがある。それを改めてこゝで言はう。

メニ、 いや、今はおよしなさい、今は。

一元 まア、それを、此騒ぎの最中におつしやるには及ばん。

コリオ いゝや、是非、今いひます。諸君には濟まんが、免して下さい。あの臭い、大勢の暴徒どもは、おれを……おれは追従はいはんから……明鏡だと思つて、おのれらの身を照らして見るがいゝ。あいつらを甘やかすのは、取りも直さず、元老の害になるものを培養するんだ、謀反だの、不遜だの、暴動だの、種を自分で蒔散らして、やくざな雑草を立派な麥の中へはびこらすんだ、あんなを食どもにくれてやりさへしなけりや、われ〜には立派な権力もありや才能もあるのに。
メニ、 はて、もうおよしなさい。

一元 も、どうかおよ、なさい。

コリオ

え？ もうよせッて？ どうして？……おれは、國のためには、どんな外敵をも怖れんで、血を流したんだ。此肺臓の働く限りは、あの癩病患者どもを……おれはあの傳染する癩ツかきに接近するのは眞平だけれども、尙敢て危険を冒して、……奴らを罵倒する新文句を吐出さないでおくものかい！

ブルー

(皮肉に)あなたのお言葉を聞いてみると、民衆と同じ弱點をもつておいでの人間だとは思へない、まるで罰を當てる神様のやうです。

シ、ニ

この通り、ありのままに民衆に知らせたはうがい。

メニ、

(駭いて)え？ え？ 彼れが疔癩を起したことを？

コリオ

なに、疔癩？ おれの心が深夜の熟睡のやうに沈静であつたつても、誓つて今いつた通りに斷言するぞ！

シ、ニ

どう斷言なさらうとも、あなたの位置が今のまゝなら、どういふ害毒もありませんや。

コリオ

(赫となつて)ありませんや？ (コミニヤスに) お聴きなすつたか、あの柳鱗の鱗王のいふことを？ 高慢ちきに「ありませんや」といひまささ！

シ、ニ

法規に背いてゐます

コリオ

「ありませんや」？……おゝ、善良なれども不賢明なる貴族たちよ！ あゝ、嚴格なれども不注意千萬なる元老官諸君よ、諸君があゝの九頭蛟に役員を選ぶ權力を與へたもんだから、こんな奴が飛び出したのだ。こいつは、たかが、その化物の姦しい喇叭たるに過ぎないのだが、高慢ちきに「ありませんや」なぞと放言します。今に主客處を換へて、諸君の清流を彼れの有だといひ、彼れの泥溝水を諸君の有だといひかねませんよ。果して奴に權力があるなら、君たちは愚物なのだ、頭をお下げなさい。が、無いなら、寛大

にするのは危険ですぞ。若し諸君が聰明なら、馬鹿な平凡人の真似をなさるな。が、聰明でなけりや、すぐ隣りへ奴らを坐らせるが、奴らが元老になりや、諸君は平民だ。いや、双方對等に發言するとしても、其主必要な料理が平民味であつた日にや、やつぱり彼奴らが元老なんだ。役員は奴らを選びます。「ありませんや」を……人氣のある「ありませんや」を……希臘にもなかつたやうな老長官に向つて平氣で叩き附ける役員を選びます。ジョーズも照覽あれ、執政官の威嚴を地に墮ちしめるものは是れだ！ どちらをも最上とするこの出来ん二權力が成立つ場合には、そこに忽ち大紛亂が起つて、どちっか滅びる。さう思ふと、此腸が煮えくり返る。

コメニ (なだめ) とにかく市場へ往きませうよ。

コリオ (それを耳にもかけず前と同じ調子で) 倉庫の穀類を無料で配附するといふ例は、往

往希臘にはあつた、それを適用しようとしたのは誰れであつたにもしろ……

メニ、 はて、さて、もうそれはおよしなさい。

コリオ (尙かまはないで) つまり、希臘では、民衆がもつとずつと權力があつたんだ。けれども、要するに、それは我儘根性を養成するんだ。國家の滅亡を招くんだ。

ブルー (シ、ニヤスを顧みて) あゝいふことをいふ人を民衆が喜んで選舉する理由はない。

コリオ (聞き答めて) おい、理由くらべなら、もつと立派なのを聞かせよう。あいつらは曾て國の爲に勤勞したことがないんだから、まさか報酬として穀類を貰はうとは思ふまい。國家危急の際に出陣を命ぜられても、市門を出ようともしない奴らだ。さういふ奉公振は穀類の無料配當を要求するには

不適當だ。たましく出陣しても、反抗したり謀叛したりするためにはかり勇氣を出す。それも功勞にはならん。奴らは動もすると元老攻撃をするが、まるで理由が無のだから、此處から折れて出て、穀類をくれてやる筈はない。さア、さうだとすると、どうだ？ 若し元老院が恩を施したら、あの群衆意識めらが何とそれを解釋するか？ 奴らが今までに爲たことで、其いひさうなどを表白させるとする、「われくは大多数だ、其われわれが要求するんだから、元老らもさすがに恐れて應じたのだ」と斯うだ。それは吾々の尊嚴を辱める所以であり、愚民らをしてわが折角の苦心を恐怖だなどと嘲らしめる所以である。今に元老院の表門が叩き毀されて、阿呆烏めが舞込んで鷺をつき殺すやうになるだらう。

メニ、
（なだめて） さア、もう澤山です。

ブルー
（皮肉に） 多過ぎるほどに澤山です。

コリオ
いや、もつと聽け。…天上及び人間のありとある誓言の料を以て、おれの今いひ終ることの保證たらしめよ！…此二重権力の存在は…一方は理由あつて他を賤むんだが、他は故なくして無禮を働くといふ此關係は…即ち貴紳が、榮爵が、知能が無學文盲な群衆の諾否を経ない以上何事も決定が出来んといふやうな關係では、到底機宜に應じた活動は出来ん。おのづから優柔不斷になる。てんで議決が出来んから、何一つ事功は擧がらん。だから、苟くも智よりも勇に秀で、國憲の改變を怖れるよりも國家の確立を重んじ、只長生するよりも立派に生きたいと望み、迎も助からんなら敢て激藥を服して、萬一の療治をしようといふ人たちは、速かにあの無数の舌の根を引ッこ抜きなさい。あいつらにや毒になる甘い物を嘗めさせないがい。君たちが貶辱されりや、正しい判断力が麻痺する。國家の本領たる一致力がなくなる。此邪魔のために、善い事をする力が

なくなる、しようと思つても。

ブルー (シ、ニヤスに) あれだけ聞いとけば澤山です。

シ、ニ 國賊らしい言分です。今に相當の應報を受けるでせう。

コリオ みぢめな下司奴め！ 畜生！……あんな分らずや共が民衆のために何の

役に立つか？ あいつらに依頼させるから、高官連に對して不柔順になる

のだ。あいつらは、任の當否よりも一に當座の都合を主として、暴動鎮撫

の爲に選ばれた奴らです。が、事が鎮まつて其當否が論じ得られる時

來たら、奴らの権力はふんだくつてしまふべきです。

ブルー こりやア明かに反逆だ！

シ、ニ あの男を執政官に？ とんでもないこつた。

此時警保官出る。

ブルー おい、警保官たち！ あの仁を捕縛なさい。

シ、ニ 民衆を呼んで来て下さい。

警保官急いで入る。

こゝに民衆を代表して、國憲を紊亂する反賊として、又公安を殘害する民衆の敵として、其方を取押へる。さア、命令通り、従いて来て、懲罰を受けなさい。

とコリオレーナスの肩へ手を掛ける。

コリオ えい、はなせ！

元老 (割つて入つて) われゝが保證人になるから。

コミニ まア、其手を放しなさい。

コリオ はなせ、腐れ老爺め！ 放さんと、其首を其着物から振り出してしまふぞ。

と手荒く突きとばす。

シ、ニ 助けてくれ、市民たち！



前の警保官、其部下を
ひきゐて、一群の市民
と共に出る。

メニ、
（これを見て驚いて）これく、双方と
もに、もちつと面目を重んじなさ
い。

シ・ニ
（群衆に）あの男は諸君の権力を悉く取上げてしまはうとしてゐるんですぞ。

ブルー
警保官、あの男を捕縛なさい！

群民
ぶつちめツちまへ！ ぶつちめツちまへ！

元老
武器をくくく！

双方の黨人が入り亂れて、コリオレーナスを取らうとて紛擾す

る。貴族や元老中のやゝ心ある者は、此亂闘を取鎮めようとして、聲を限りに鎮撫しつゝ、驅け廻る。

貴族
これさ、保民官！ おい、貴族たち！ 市民たち！……これさ、どうしたものだ？……シ、ニヤス！ ブルーダス！ コリオレーナス！ 市民たち！……しづかにくく！ しづかにくく！ まアく、まつたりくく！ しづかにくく！

メニ、ヤスもまた此取りさへ役の一人である。

メニ、
（息を切らして）どうなるこつた！……あゝ、息が切れる！ こりやもうめちやめちやだ。あゝ、物がいへない。……これく、君たちは保民官ぢやないか？……これ、コリオレーナス、まアくく！……これさ、シ、ニヤス、何と
かいひなさいよ。

シ・ニ
おいく、諸君、しづかにくく！

群民

保民官が何かいはれるんだ。しっく！……さア、おいひなさい
おいひなさい！

シ、ニ

君たちは今自由をなくしてしまはうとしてゐるんだ。マーシヤスが、君
たちが執政官に選ばうとしたあのマーシヤスが、君たちから何もかも取つ
てしまはうとしてゐるんだ。

メニ、

(驚いて)おい、馬鹿なことを！ それぢや焚きつけるんだ、鎮めるんぢ
やない。

一元

此市を毀してしまふんだ。

シ、ニ

民衆を度外視した市でものがありますか？

群民

さうだ、民衆が市だ。

ブルー

われ／＼は衆議一致の上で、民衆の代表として選ばれたものですぞ。
今でもさうだぞ。

群民

メニ、

當分はさうらしい。

コミニ

こりやまるで、此市をぶちこはして顛覆して、秩序立つてるものを破壊
の堆積中へ埋めツちまはうとするんだ。

シ、ニ

死刑に相當する所行です。

ブルー

われ／＼は、権力を有する限り、あくまでもそれを勵行します。民衆の代
表として選ばれた以上、彼等に代つて宣告します。マーシヤスは直ちに
死刑に處すべきです。

シ、ニ

(警保官に)だから、ターペイヤ岩へ引立て、いつて、あそこから投落しなさい。
い。

ブルー

警保官、それ、捕縛なさい！

群民

マーシヤス、降参しろ／＼

又騒がしくなる。

メニ、 マア、暫く、保民官たち、どうかわたしのいふことを一言、群民尙騒ぐ。

警保 しづかに！

これにて少し静かになる。

メ、 (アルータスに) そんな過激なことをしないで、保民官らしく、國家の眞友らしく、穩當な手段をお取りなさい。

ブルー いや、激烈な病氣に用心深過る冷淡な療治法を用ひるのは毒になるばかりです。早く捕縛して、例の岩頭へ引ッ立てなさい。

コリオレーナス 奮然として劍を抜く。

コリオ いや、死ぬならこゝで死ぬぞ。そこにある手合のうちにや、おれの戦ふのを見た者があるだらう。さ、他人の身の上に見たことをうぬが身の上、に實驗して見ろ。

と劍を揮つて躍りかゝらうとする。又大騒ぎになりかける。

メニ、 (人々に) それ、あの劍を叩き落しなさい！……保民官たち、おひかへなさい、おひかへなさい！

ブルー (警保官に) あいつをお押へなさい。

警保官が立ちかゝらうとする。

メニ、 それ、マーシヤスをお助けなさい。苟くも義を重んずる人々は、老若にかかはらず、彼れをお助けなさい、彼れを！

群民 (二齊に) あいつをやツつける、あいつを！

ごつちやの立廻りになる。とゞ保民官ら、警保官らは民衆と共に敗北して入る。

メニ、 (コリオレーナスに) さ、お宅へお引取りない。さ、早く！ でないと、何

もかもめちやく〜になつてしまふ。

元二 さ、お立退きなさい。

コ三 立退くには及ばない。身方の数は決して敵の數に劣りやアしない。

メニ、 え、暴力を競べようといふのですか？

元一 とんでもないことです！ どうか一先づお引取り下さい。病根の療治は

わたしどもにお任せ下さい。

メニ、 いや、瘡の根はわれ〜に在るんだから、あなたがたが探針を入れるわけにはいかん。ま、どうかお引取り下さい。

コ三 (コリオレーナスに) さ、では一しよにおいでなさい。

コリオ (群民らの後ろ影を見送りつゝ) あいつらが外夷共だといふのに、實際さうなんだから。羅馬生れといふのは名ばかりの犬ッころめ！ 奴らは羅馬人ぢやアない、たとひ大殿堂の車寄せで生れやがつたにもしろ。

メニ、 まあ、お歸りなさい。腹の立つのは尤もだが、今はそれをいはんはうがい。けふの返報は他日出来るから。

コリオ 足場がよけりやアあいつら四五十人は一挫きた。

メニ、 わたしだつて奴らの頭分の一對ぐらゐは引受けるよ、あの保民官ぐらゐは。

コ三 だが、今は數へ切れんほどの多數だ。大きな建物が倒れかゝつて來るのを手で支へようとする男は勇者ではなくツて馬鹿者だ。ねえ、お引取りなさい、襤褸共の歸つて來んうちに。奴らはまるで堰られた急流のやうに怒り猛つて、常は浮べてゐたものを押流したり引ツくり返したりする。

メニ、 どうぞ歸つて下さい。わたしの此老分別があつた分別なしどもに利くか利かんか、ともかくもやつて見るから。この綻びは、何とかして補綴らなけりやならん。

コミニ まアさ、おいでなさい。

コリオレーナスを促してコミニヤスら入る。メニ、ヤスと貴族若干残る。

一貴 あの仁は好運を取りぞこなつてしまつた。

メニ、 俗界に處するにはあんまり氣位が高過ぎます。彼れは海龍王が三叉戟を譲るといつても、追従はいふまいし、天神が雷霆を使ふ通力をやらうといつても諛ふまい。心がすぐ口へ出る。胸の中で鍛へて舌を吐き出さずにやをられん質だ。怒つたりといふと、死ぬなんてことはまるで忘れツちまふからね。

奥にて騷擾の聲々。

二貴 やれく、けつこうな事がはじまつた！

彼奴ら、寢床にでも入つておればいゝのに！

メニ、 タイパー河へでも陥つてをればいゝのに！ 畜生！ しやうがないこと

になツちまつた！……あんなに口ぎたなくいはなければいゝのに！

ブルータスとシ、ニヤスが、又群民をひきぬて出る。

シ、ニ 毒蛇はどこへ往つた、この市の人種を絶して、何もかも横領しようとする毒蛇は？

メニ、 こりやく、保民官たち……

シ、ニ 容赦なく法通りに、ターペイヤ岩から投げ落すがいゝ。國法を蔑ろにした奴だから、國法のはうでも、手續を踏んで糾問なんかするに及ばん。すぐに輿論の威力のおそろしさを思ひ知らせてくれよう、奴が蔑ろにした輿論の力のおそろしさを。

一民 さうすりやあいつだつて、保民官たちは民衆の口で、おいらたちは其手だてを覺るだらう。

群民 さうとも。きつと覺るだらう。

一同勢ひ込んで驅け出さうとする。

メニ、 あ、これく……

シ、ニ しイッ！ しづかにく！

これにて群衆しづまる。

メニ、 亂暴な號令を掛けちやいかんよ。まアく、穩當にく！

シ、ニ どういふわけであなたが仲裁にお入りなさるんです？

メニ、 まアく、聞いて下さい。無論わたしはあの執政官には、長所があると共に、種々の短所のあることを知つてゐる……

シ、ニ 執政官？ といふのはだれです？

メニ、 コリオレーナスさ。

ブルー あいつが執政官だ！

群民

ノーく！ ノーク！

メニ、 もしも保民官たちの、又君たちの許によつて、物が言へるものならば、せめて一二言いはして下さい。わたしに物をいはずして、只それだけの時

間が費えるだけで、君たちにどういふ損害もないわけだから。

シ、ニ ぢや、簡單においひなさい。われくは誓つてあの謀反人の毒蛇めをや

ツつけようとしてゐるんだから。あいつを追放に處するのは一の危険た

るに過ぎんだらうが、このまゝうツちやつておくのは、明かにわれわれの

身の破滅です。だから、今夜中に殺しツちまふことにきめたんです。

メニ、 あゝ、神々よ、禁じたまへ、天神の御帳簿に其功勞者に對する感恩を記録し

ておいた名譽の羅馬が、非倫なる母獸のやうにわが實の仔を食ふことを！

シ、ニ いゝや、あいつは悪い腫物です、だから切取らなけりやならない。

メニ、 おゝ、あの仁は手足だ、病ひは只ほんの其一部にあるのだ。切取りや命に

かゝはる。決して治らん病ひぢやない。死刑にせにやならんやうなどんな事を彼れがしたか？ 羅馬の勁敵を殺戮する爲に彼れが失つた鮮血は、實際何オンスとも量り知られん程だが、そりやみんな國の爲に流したのだ。それなのに、其残りの血を國の者の手で失さすのは、それをする者、させておく者の大きな恥だ、世界の絶滅時まで残る恥辱だ。

シ、ニ (あざ笑つて) 大まちがひの話だ。

ブルー まるで見當がちがつてゐる。あいつが國を愛してゐた時分には、こちらも相當の敬意を表してゐたんだ。

メニ、 役に立つた脛も、一旦脱疽にかゝるといふと、もうとんと有りがたがられなくなつて……

ブルー もう聞きません……(群民に)あいつの邸へ追ッ掛けていつて、引ッ立て、

來なさい。あゝいふ根性は傳染するから、外へ擴がるといけなない。

メニ、 (とめて)あゝ、もう一言、もう一言。虎が猛つて駈け出すやうに、さう無暗に急いですると、後になつて、踵へ鉛の錘を掛けても既う間に合はんことになる。前後を考へておやんなさい。あの仁は人望があるから、黨派の戦ひにでもなると、此大羅馬が羅馬人自身の手で劫掠されるやうなことになるりますぞ。

ブルー もしさうなりや……

シ、ニ かれこれいふ必要はありません！ あの男の柔順さ加減はもう試験済みです。警保官を撲つたぢやありませんか？ われゝに反抗したぢやないか？……さア、往きませう。

メニ、 まアさゝ。あの仁は、自分で劍が抜けるやうになつてからは、すつと陣中でばかり育つて來た男だ、だから、辭令にや媚れてゐない。粒も殻も無

差別に抛り出すのが癖だ。許して下さりや、わたしが往つて、とくと彼れを説得して、正當な、…平和な形式で…諸君のお集りの場所へ出張させて應答させる、どんな危険を冒させても。

一元老 保民官たち、さうなさるのが人道的です。さうでないと、流血の慘を見るやうなことになるませう。どう結局するか殆ど豫想しがたいであらう。

シ、ニ (やつと納得して丁寧に) メニ、ヤスさん、では民衆方の役員になつて下さい。…諸君、武器はお棄てなさい。

ブルー みんなお引取りなさい。
シ、ニ 市場へお集りなさい。わたしたちも後から往きます。(メニ、ヤスに) だが、もしマーシヤスを伴れて来て下さらないと、われ々は豫定通りにやりま

メニ、 すぞ。
きつと伴れて往きます。(元老らに) 御同伴を願ひたい。彼れを伴れて來ま

元老 す、でない、と、どんなことになるか分らん。
では、御案内を願ひます。

皆入る。

第二場 コリオレーナスの家の一室

コリオレーナスをダキに貴紳ら出る。

コリオ (頑然として) 此頭の上へ何もかもおツことさせて下さい。車で轢き殺されようと、悍馬の後足で真二つに引裂かれようと、ターペイヤの岩の上へ更に十箇も小山を積んで、目も達かん深い谷へ真逆さまに投げ落されようと、わたしは決して此態度は變へん。

一貴 (感謝して) いや、以てお立派です。
コリオ 家母はそれ以上に賛成してくれべきなのに、どうしたんだか? 家母はあ

いつらの事を、平素は、鏝錢で賣買される爲に造られた毛布野郎だの、集會の席へ素頭で出て、呆れて口を開いて、棒立になつてゐる爲に造られた動物だのと罵倒してゐる癖に。

デラムニヤ出る。

……(デラムニヤを迎へて) 今、噂をしてゐました。なぜわたしに穩和しくしろとおつしやるのです？ 本性に背いたことをさせようといふのですか？ むしろ男らしい振舞だといつて下さい。

デラム あゝ、これゝ、わしは先づ一旦じつと権力を身に附けて貰ひたかつたのです、着破つてしまふ前に。

コリオ (氣短かに) もうわかつた。

デラム お前さんは立派な男だてことを十分に人に合點させることが出来たのです、自分であんなに躐さきさへしななければ。お前さんに對する反抗はもつ

コリオ といつら縊り殺されてしまやアがれ！
と少くつてすんだのです、お前に害をする権力がまだ彼等に存在してゐる間に氣質や料簡を知られるやうなことをおしでなかつたなら。

デラム さうとも、其上、焼殺されてしまやアがれだ！

メニ、ヤスを先きに元老ら出る。

メニ、 (コリオレーナスに) おいゝ、ちつとけふは荒過ぎましたよ、少々亂暴過ぎましたよ、もう一度出かけて、何とかなさらんけりやいけなない。

元一 どうも外にしやうがないのです、うツちやつておけば、國家が真中で二つに裂けて自滅してしまひます。

デラム (コリオレーナスに) わしの意見を聴きなさい。わしとても勇氣は決してお前さんに譲るとは思ひません、けれども一旦の怒りの爲に事を誤らんだだけの分別を持つてゐます。



メニ、

御賢母、ようおつしやられた！
全國家が瀕死の急病に罹つてゐるのを救ふ爲でなけりや、御子息の頭をあいつらに下げさせる前に、柄にないことだが、わたしが真先に甲冑を被て飛び出しま

コリオ (メニ、ヤスに) では、どうしろといふのです？

メニ、 もう一度保民官に會つて下さい。

コリオ どうするのです？ 會つてどうするのです？

メニ、 先刻いつたことはわるかつたといつて下さい。

コリオ あいつらに？ そんなことは神々に向つても出来ない。それをあいつ

らに對して是非しろといふのですか？

ブラム これ、そりやあんまり頑固過ぎますぞ。もつとも、斯ういふ切迫した場合でなければ、立派な態度だともいへるのだけれども。これ、お前さんがよく言つたことだ、戦の時には、名譽と策略とが莫逆の友のやうに一しよに生長すると。それが眞理なら、平和の時にだつて、其二つが一しよになつてゐない爲に、互ひに損をすることがありやせんかい？

コリオ (舌打をして) ちえッ！ ちえッ！

メニ、 (獨語のやうに) こりやア急處です。

ブラム 若し果して戦の時には、……即ち最善の目的の爲には……策略を用ひて、敵手をだましたつても不名譽にならんものなら、平和の時にだつて、それが不名譽になる筈はない、同じく必要があるとするれば。

コリオ なぜそれをわたしに強ひてしろとおつしやるのです？